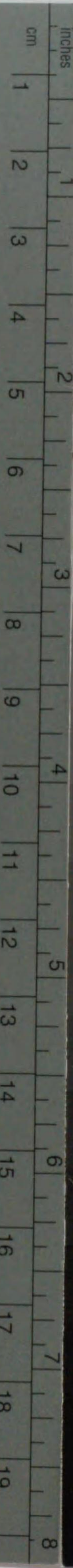


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



未
帙入二冊

三階佛法

上





階
佛
法



影印三階佛法解題

大 屋 德 城

三階佛法は隋信行の撰する所にして、三階宗の著述中、第一位を占むる要書なり。

抑三階宗は信行の主唱する所にして、其所立多端なり。雖も、略して之を云はゞ、佛教を一乘三乗の兩乘に分ち、之に普別の二法あり、兩乘を別修するを別法と名け、一切法を普修するを普法と名く。更に第一、第二、第三の三階を設け、之に時に依り、處に約し、人に準するの三義あり。こし、正法は第一階、像法は第二階、末法は第三階の時なり。淨土は一乗の世界にして第一階、娑婆は三乗の世界にして第二階、穢土中戒見俱破の衆生のみ在る處は第三階と

二
す。戒見俱に破せず、正見成就最上利根の人は、即ち一乗の根機にして、第一階に屬し、破戒すこ雖も、尙正見に住し、見を破せざる者は、即ち三乗の根機にして、第二階に屬し、戒見俱破の惡衆生は即ち第三階に屬す。斯くの如く時、處、人に就て考ふるに、今や正に第三階の時代なり。須く別法を廢して、普法を修し、以て得脫を期す可し、之を普眞眞正の佛法と名くと説き、戒を捨て、乞を行ひ、行業常軌を逸したるもの、如く、頗る世の非難を蒙りしが、一時大に流行し、三階宗の稱あるに至れり。

信行姓は王氏、魏郡の人、少にして落采し、群經を博綜し、行業人に異る。塔影あれば必ず周行禮拜す。具足戒を受くこ雖も、後、相州法藏寺に於て之を捨て、大僧の下、沙彌の上に在り、親しく勞役を執り、門徒悉く方等結淨を行ひ、頭陀行乞、日に唯一食、路上の男女悉く禮拜するこ

こ、常不輕の行に似たり。開皇の初、召されて入京し、僕射高穎延て眞寂寺に住せしむ。撰述する所、對根起行、三階集錄、山東諸制衆事諸法合四十餘卷、又京師に於て、化度、光明、慈門、慧日、弘善の五寺を置く。徒風を望みて其門に到る。開皇十四年正月四日寂す。春秋五十四碑に五十五と云ふ

同七日化度寺に送り、南山鷄鳴の阜に葬る。河東斐玄證文を制して碑を建つ。傳は歷代三寶記卷第十二續高僧傳卷第十六冥報記卷上新修科分六學僧傳卷第十三等に在り。其著は開皇二十年勅して流行を禁ずこ雖も、弟子僧邕、慧如等あり。僧邕は

貞觀十五年度寺に寂し、僧邕碑景龍元年、其徒師利、瑜伽法鏡經卷二を僞作し開元錄卷第十八後還俗を命ぜられ、又、信行を四依の菩薩と稱せし三階師ありし釋淨土群疑論卷第三さいふを以て觀る

に、後繼者の少からざりしを察す可く、證聖元年の僞經編入聖曆二年開元十三年の禁遏を併せ攷ふるに、唐の中葉、尙餘炎

の熾んなるものありしを想ふ可し。

三階宗の撰述は信行を主として、其徒の手に出づと雖も歴代の經錄、信行に歸して著錄するを例とす。歴代三寶記卷第十二には、

對根起行雜錄三十二卷

三階位別集錄三卷

右二部合三十五卷、真寂寺沙門釋信行撰

と載せ、大唐內典錄卷第十には、

○隋朝真寂寺沙門釋信行撰、三階集錄將四十卷

○對根起行雜錄集三十卷

○三階位別錄集四卷

とあり。卷數に於て小異ありと雖も、全く同本なり。

異に據れば、三寶記の對根起行雜錄は宋元明の三本俱に錄字の下に集字あり。又三階位別錄集は三本共錄集に作るといへり。

大周刊定衆經目錄卷第十五には、廿二部廿九卷を出せり。

縮刷藏經の校

○三階集錄一部四卷 ○三階集錄一部二卷 ○大乘驗人通行法卷一 ○對

根淺深發菩提心法卷一 ○末法衆生於佛法內廢興所由法卷一 ○

對根淺深同異法卷一 ○學求善知識發菩提心法卷一 ○廣明法界

衆生根機法卷一 ○略明法界衆生根機法卷一 ○世間出世間兩階

人發菩提心法卷一 ○十種惡具足人回心入道法卷一 ○行行同異

法卷一 ○當根器所行法卷一 ○明善人惡人法卷一 ○就佛法內明一

切佛法一切六師外道法卷二 ○三十六種對面不識錯法卷一 ○根

機普藥法卷二 ○十大段明義卷二 ○大乘無盡法卷一 ○毘發願法卷一

○人情所行行法卷一 ○大衆制卷一

右三階雜法二十二部二十九卷

開元釋教錄卷第十八 別錄中疑惑第六 には、十五部、四十四卷の目を列せ

り。

○三階佛法四卷 內典錄云三階別集四卷者即此是

○十大段明義三卷 長房錄云三階別集三卷者即此是

○根機普藥法二卷 大周錄中除此之外更有三階集錄二卷者誤

○三十六種對面不識錯法 明一切三十六種對面不識錯

右三階法都有四部、初是四卷三階、次是三卷三階、三是兩卷三階、後是一卷三階、後之三本入集錄數。

○大乘驗人通行法一卷

○對根淺深發菩提心法一卷 上加明諸經中四字

○對根淺深同異法一卷 同前加四字

○末法衆生於佛法內廢興所由法一卷 上加明諸經中對根淺深八字

○學求善知識發菩提心法一卷 明世間五濁惡世界末法惡時十惡衆生福德下行於此四種具足人中謂當三乘器人依諸

大乘經論學求善知識學發菩提心一卷

○廣明法界衆生根機法一卷 廣明法界衆生根機上下起行淺深法

○略明法界衆生根機法一卷 略明法界衆生根機上下起行淺深法

○世間出世間兩階人發菩提心法一卷 明諸大乘修多羅內世間出世間兩階人發菩提心同異法

○世間十種惡具足人迴心入道法一卷 明十種惡具足人內最惡人迴心入道者斷惡修善法也

○行行同異法一卷 明世間出世間人行行同異法

○當根器所行法一卷 明佛滅度第二五百年以後一切最大顛倒最大邪見最大惡衆生當根器所行法

○明善人惡人多少法一卷 明佛滅度一千五百年以後善人惡人多

○就佛法內明一切佛法一切六師外道法二卷 就一切佛法內明一切佛法六師外道法同異

○明大乘無盡藏法一卷

○明諸經中發願法一卷

○略發願法一卷

○明人情行法一卷

○大衆制法一卷

○敬三寶法一卷 明諸經中對根起行淺深敬三寶法

○對根起行法一卷 明一切衆生對根上下起行法於內有五段

○頭陀乞食法一卷 依諸經論畧抄頭陀乞食法

○明乞食八門法一卷

○諸經要集二卷

○十輪依義立名二卷 大方廣十輪經 學依義立名

○十輪略抄一卷 大方廣十輪經 入集錄畧抄出

○大集月藏分依義立名一卷 大集月藏分經、明像法中要 行法人集錄畧抄依義立名

○大集月藏分抄一卷 大集月藏分經、明像法中要 行法人集錄畧抄出

○月燈經要略一卷

○迦葉佛藏抄一卷 明一切出家人內最惡出家人 斷惡修善法如迦葉佛藏經說

○廣七階佛名一卷 觀藥王藥上菩薩經佛名一卷

○略七階佛名一卷 已上三階法等、於中多題人 集錄字其廣題目具如脚注

右三階法及雜集錄、總三十五部四十四卷、隋真寂寺沙

門信行撰 長房錄云、總三十五卷、內典錄云、都四十卷、大周偽錄但載二十二部二十九卷、並收不盡、其三階興教碑云、四十餘卷、而不別列部卷篇目、今

細搜括具 件如上、

これ三階宗撰述の全目なる可く、以後又之に及ぶものを觀

ず。貞元新定釋教目錄 卷第十 には、
沙門釋信行 三十五部四十四卷集錄如下二十八卷及三十卷中說

といひ、又同 卷第十九 にも、

隋沙門信行三階集錄 周錄雖載收之不盡 三十五部四十四卷

とあり。されば、三十五部四十四卷は三階宗典籍の全部なりと謂ふ可し。

降りて、高麗義天の海東有本見行錄 卷下 には、二部を出せり。

入道出世要法二卷 或一卷

三階集錄四卷 已上 信行述

翻て之を傳記に徴するに、碑には、

遂於十二部經中、撰對根起行之法三十餘卷、又出三階佛

法四卷、並行之於世、

と見え、續高僧傳には、

乃撰對根起行三階集錄及山東所制衆事諸法合四十餘卷、

援引文據類叙顯然、

とあり、冥報記には、

乃鈔集經論、參驗人法所當學者、爲三十六卷、名曰人集錄、

+

さいひ、元の曇噩は、

著對根起行三階集錄、及東山所制諸文、合四十餘卷、以傳不朽、

さいひて、全く道宣を踏襲せり。

此等撰述の内容に就て考ふるに、多くは經論を鈔集して、一部の體裁を爲したるもの、如く、三寶記に、

此錄並引經論正文、而其外題無定准的、

さいひ、

開皇二十年勅斷不聽流行、

さいふを以て觀るに、如何に普通の撰述と異りしかを察す

可く、信行寂後

開皇十四年寂

七年、既に禁斷の厄に遭へり。續高

僧傳には、

凡所著述皆委證筆、

さいひて、信行の撰は悉く裴玄證の手に出づと傳ふ。大周錄には、證聖元年僞經を定め、僞經目錄に編入し、聖曆二年、其の徒に禁壓を加へたることを録せり。

奉證聖元年恩勅令定僞經、及雜符籙等遣送祠部進內、前件教門既違背佛意、別構異端、卽是僞經符籙之限、又准聖曆二年勅其有學三階者、唯得乞食長齋絕穀持戒坐禪、此輒行皆是違法、幸承明勅、使革往非、不敢妄編於目錄、並從刊削以示將來、

開元十三年集錄を禁斷し、嚴制を加へたり。開元錄に云く。

信行所撰雖引經文皆黨、其偏見妄生穿鑿、既乖反聖旨、

復冒眞宗、

中略

逮我開元神武皇帝

中略

知彼反眞構妄出制斷

之、開元十三年乙丑歲六月三日、勅諸寺三階院並令除去隔障、使與大院相通、衆僧錯居不得別住、所行集錄悉禁

斷除毀、若綱維縱其行化誘人而不糺者勒還俗、幸承明旨
革往非、不敢妄編在於正錄、並從刊削以示將來、

而して、註に、
其廣略七階、但依經集出、雖無異義即是信行集錄之數、
明制除廢不敢輒存故載斯錄、

さいふに至れり。

貞元十六年日本延暦十九年貞元錄成るや、信行の三十五部四十四卷

は入藏せられ、書目は同録卷第三十、入藏錄下に列舉せられしが、其後

闕略し、高麗大藏の貞元錄には此部分を見ず隨て麗藏を底本とせる縮刷藏經にも見えず。

然るに、古寫の貞元錄には、往々此部を存するものあり。

管見の及ぶ所を以てするも、吉水藏の本入藏錄二帖、文明十年忠助寫、粘葉本には

第四十八帙兩部七卷 第四十九帙六部七卷

第五十帙八部八卷 第五十一帙十部十卷

第五十二帙九部十一卷

の目を舉ぐ。即ち都計五帙、三十五部、四十四卷と爲る

其書目は開元錄に同じ 金剛藏の本 入藏錄二帖、鎌倉時代頃寫、粘葉本 には、

二集七卷同帙 六部七卷同帙

八部八卷同帙 十部十一卷同帙

九部十一卷同帙

とありて、前者に同じく、書目亦同じ。此本の記載に據りて、試に各本の紙數を出さば左の如し。書目を略し、開元錄の順序に依り番号を附して、紙數を記入す可し

(一)	一六〇	(二)	六七	(三)	一三五	(四)	一九	(五)	三四	(六)	二四
(七)	一六	(八)	一五	(九)	五八	(一〇)	三二	(一一)	記なし	(一二)	三〇
(一三)	一五	(一四)	六二	(一五)	一五	(一六)	記なし	(一七)	八一	(一八)	四
(一九)	七七	(二〇)	六	(二一)	二五	(二二)	一	(二三)	九	(二四)	九
(二五)	一一	(二六)	一〇	(二七)	五三	(二八)	三一	(二九)	六〇	(三〇)	一九
(三一)	二	(三二)	五	(三三)	一六	(三四)	三〇	(三五)	六		

其後、會昌の破佛あり。唐末、五代の乱を経て亡佚せしか、歴代の大藏亦三階宗の典籍を收めず。其所立往々他宗に涉るを以て、其宗の撰述中、談の三階宗に及ぶものあり。即ち法藏は一乘教義分齊章卷上に、古今の立教を論じ古今立教第三十家の教判を叙する中、第九光宅寺法雲の下に於て、信行に論及し、西方要決釋疑通規の著者は、淨土教に對する諸家の疑難を會釋する中、第十一に、三階行者五種小疑を論じ、懷感は釋淨土群疑論卷第三に、別破信行の一項并に反難三階章を設け、逆謗除取等に就き、十五家の釋を擧げ、第十四に「觀經取者是第二階人、壽經除者是第三階人」さて、信行及び三階師の説を擧げ、大過の失、大減の失ありとし、更に七難及び十三の遮難を列擧して、批判會釋せり。斯くの如く、唐朝の華嚴宗、并に淨土教との交渉少からざりしを以て、三階宗の説は、此等教家の撰述に引用せら

れ、典籍逸すご雖も、其の教説の一斑は後世に傳はり、我朝の教家亦往々批評會釋の之に及ぶものあり。凝然、湛睿、道忠の如き、其著名なるものなり。

尚、智儼、憬興、法實等は各其著に於て、斯宗に論及せり。即ち、華嚴五十要問答并に同孔目章には、普敬認惡に關する文あり。無量壽經連義述文贊には、「有説、除即第三階造五逆者、生即第二階造逆者、此亦不然」云々といひ、俱舍論疏卷第十九には、「三階云法律禪師同十三種惡外道」云々といへり。又念佛鏡には、念佛對三階門の一項を立て、詳述せり。

三階宗書は唐土に亡佚したりご雖も、而も我朝天平の古へ夙に渡來し、鎌倉時代尙其の存在の徴す可きものあり。今其本邦渡來を考ふるに、天平十九年十月九日寫疏所解の中に、

三階律周部九司无緒軸表

と見ゆ、又同解に、

明三階佛法二司上下无軸

略名法界衆生根機淺深法一司信行マ(部カ)无軸

とあるを初見とし、實に左の如き多くの文證あり。

○天平十九年十二月二日寫疏手實帳

明三階佛法二卷

○同

明三階佛上卷用六十五枚

○同

略明法界衆生根機淺深法一寫

○同

明三階佛法

下卷用紙
冊八枚

○天平十九年十二月三日寫疏所解

明三階佛法下卷用紙冊八枚

○天平十九年十二月十五日寫疏所解

明三階佛法上卷用七十

一枚金網
二枚金万呂

下卷用卅八

一枚金網
二枚金万呂

○同

略明衆生根機淺深法一卷用卅五

一枚金網
二枚金万呂

○天平十九年十二月十五日經師寫疏布施充帳

明三階佛法 五

(中畧)

明三階佛法下卷 冊八

(中畧)

略明法界衆生根機淺法一卷

二

(中畧)

略明法界衆生根機淺深法一卷 用卅三

○天平廿年三月十七日經疏充本帳

明三階佛法上卷

用七十
下卷卅五張

○天平廿年八月四日經律奉請帳

三階律同部九寫

元緒軸表

三階律三寫

○天平廿年裝潢丈部曾稱麻呂手實

明三階上一卷 用紙六十九張

○天平勝寶元年東大寺寫一切經所解

明三階佛法二卷

○天平勝寶二年十一月十三日寫疏裝潢造紙上表

明三階佛法二卷

上下用八十三枚

○〔天平勝寶五年五月七日類聚〕奉寫章疏集傳目錄

略明衆生根機淺深法一卷 卅五紙

明三階佛法二卷 百十八紙

此等の文書を通覽するに、

三階律周

又同に作る 部

九号

三階律

三号

明三階佛法 上下

二号

凡百十八紙(上凡七十紙下凡四十八紙)

略明法界衆生根機淺深法

一号

卅三紙又は卅五紙

の四部は正しく三階宗に屬する典籍なること明かなり。而して、後の二部は開元、貞元二錄に見ゆれども、明三階佛法が三階集錄に當ることは後に説く可し 前の二部は諸錄に見えざる所なり。されど、三階を冠するを以て考ふるに、三階宗書なることは疑ひなしと謂ふ可し。

謂ふ可し。

斯くの如く、三階宗書の流傳ありとすれば、其請來者の何人なるかは、當然起る可き問題なるが、未だ文献の徴す可きものあるを知らず。案するに、天平七年玄昉歸朝し、同八年唐僧道璿來朝す。されば此等の人々の請來に係るものなる可く、就中玄昉は靈龜二年入唐し、天平七年遣唐大使多治比廣成に隨て歸朝し、在唐二十年、經論五千餘卷を齎し來りたること續紀天平十八年六月に見ゆ、普通之を開元錄の一切經五千四十八卷と解すれども、三階宗書の流行を禁斷したる開元十三年日本神龜二年は正しく長安滯留中なれば、此等を蒐集請來したること無しといふ可からず。果して然らば、信行滅後開皇十四年 一百四十二年に當る。

其後の流傳に就ては、奈良、平安兩朝の撰述に引用の有無を知らず。東大寺壽靈の五教章指事の如き、古今立教第

三 第九信 行の下 を釋する文中、何等三階宗書に言及するもの無し。

されど、平安朝を通じて存在せしことは確にして、同末葉

の書たる小乗律論諸家義章諸宗雜法門人師集傳諸經論音義

因明疏記目錄丙の中に 此書奥に、「法隆寺沙門延清文」、又別筆にて、「五師靜因傳賜之」とあり。靜因の五師たりしは、天治元年の頃なり。

明三階佛法二卷

百廿

とあるに依りて明かなり。 百廿は百二十紙の意なり。 又神護寺及び高山寺の

一切經は、貞元錄の一切經なりしを以て、三十五部、四十

四卷の三階宗書を包含せしなる可く、文献の徵す可きもの

あり。即ち神護寺略記に、

一經藏一切經等事 三本内

(中畧)

一本者金泥一切經 貞元錄

鳥羽院御願也、被相副目錄二卷、朝隆卿筆跡、後白

河院御代、被安置當寺。

ご見ぬ、高山寺緣起 建長五年 高信錄 に、

一經藏二字 東經藏

(中畧)

奉納一切經 附貞元錄

合大小乘經律論及賢聖集等

總一千二百三十八部

合五千三百五十一卷内

缺本四十四卷、見在五千三百七卷、信行禪師三階佛

法已下四十四卷缺、而相當上人十三年之忌辰、續彼

缺本滿一部畢。 (下略)

ごあり。高辨は寛喜四年正月十九日の寂なれば、其十三回

忌は寛元二年に相當す。然るに、貞元錄は一千二百五十八

部、五千三百九十卷ならざる可からず。故に二十部三十九

卷を闕く一切經の中に、補寫編入せられし四十四卷は、果

して悉く三階宗書なりしやは疑問の餘地あれども、三階佛

法以下さいふを以て考ふるに、目錄上より論ずる時は、悉

く三階宗書なる可く考へらる。要するに、三階佛法一部の存在は疑ふの餘地なし。建長五年は、寛元二年より十年後なり。

三階佛法が鎌倉時代に存在せしことは、他に明證あり。

即ち一は釋淨土群疑論探要記卷第十に引用せらるゝ事之にし

て、他は華嚴五教章通路記卷第十三に論及せらるゝ事之なり。

探要記の著者道忠は弘安四年正月十日に寂せし人なるが、其著

に盛に三階集録を引用し、又法界衆生根機淺深法并に神昉

の十輪經鈔三階宗書の一なり。を引用し、當時流傳せし、三階宗書を論

じて、
於中、三階佛法四卷、法界衆生根機淺深法一卷、僅雖得

之、其餘三十九卷、所未見及也。

といひ、凝然は

藏經之中、有三階集録五卷、

といへり。此藏經は貞元一切經なる可く、かくて、元亨の

頃元亨元年九月五日
凝然寂、八十二歳迄は其の存在は確實なりといふ可し。降り

て、足利、徳川時代に至りては、存在に關する文献の徴す

可きものを觀ず。挫僻打磨編の著者は之を見たるが如くい

へるも、恐らくは探要記の引文等を指すなる可し。神昉に就きては、

道忠、惠詳の自鏡録を引きて云く「慈悲寺僧神昉、少年以來、聽學十輪、精勤苦行、異於常人
着糞掃衣、六時禮讚、乞食爲業、每誦十輪經、讀誦般若者墮地獄、畢至臨終時、生身被地獄火
燒、傍身有烟氣、于時濟法寺僧思簡、親見此事、信知斷學般若必
有惡徵、見身立證」と、以て神昉の三階師なることを知る可し。

さて、三階佛法の現存するもの三種あり。其一は即ち法

隆寺所藏の本、其二は即ち東大寺舊尊勝院の本にして、今

正倉院聖語藏に在り。其三は即ち京都興聖寺の本之なり。

(一) 法隆寺本 二卷 卷子本 竪八寸三分五厘

第一、第二、

一卷ごしては共に完本にして、朽葉色の標紙を有し
題號あり。黒漆塗の軸を附す。

(二) 聖語藏本

三卷

卷子本

第二、整八寸六分弱、第三、整八寸三分五厘、第四、整八寸五分

第二、第三、第四、

第二、第四は俱に完本、第二は前部闕失す。第二は朽葉色の標紙を有し、題號あり。第四も同様なれども、標紙半ば爛脱し、題號無し。第三は標紙題號共に存せず。三本共に軸身黒漆塗、軸端朱漆塗の軸を附す。

(三) 興聖寺本

五帖

卷子改摺本

整凡八寸四分、横凡三寸二分

第一、第二、第三、第四、第五の五卷を存し、第一第二、第三俱に前部闕失し、第四、第五は完本なり。卷子本を裏打して、折經式に改摺し、薬袋紙の表紙を附す。第一は上本、第二は上末、第三は下上、第

四は下中、第五は下々となり、第五の終は切斷せられて、題號を闕く。

三本共に烏絲欄を設け、法隆寺及び聖語藏の兩本は一行凡十七字 時に十八字もあり 共に書寫の紀年なし。法隆寺本は各卷末に

「交了」の墨書あり。聖語藏本は各卷末に「一交了」の墨書あり。而して、第二には更に「明勝房分」と墨書の背記あり。

興聖寺本は帖に依り小異ありと雖も、一行凡十二三字より十六七字に至り、全部を通じて五六筆より成る。紀年筆者等の記載なし。 料紙は何れも粗末なる楮紙にして、就中聖語藏本最も宜しく、殊に第四は佳良なる烏子なり。 其内容は興聖寺本

最も完全にして、聖語藏本之に亞き、法隆寺本又之に亞く。三本を合する時は第二の重複を除き、一部殆ど完備し、唯第三の首部に些少の爛脱あるのみ。今左に三本の内容を對照す可し。

〔卷〕

〔法隆寺本〕

一

(存)

二

(存)

三

(闕)

四

(闕)

五

(闕)

〔聖語藏本〕

(闕)

(存)

(存)

但前部爛
脱す

興聖寺本第三の首より六百四十五行に相當する部分を闕く
次行より興聖寺本第四の尾より三百三十一行迄に相當す

興聖寺本第四の殘部と同第五の全部に相當す

内容は存すれども第五の名稱は存せず

〔興聖寺本〕

(存)

但首部爛
脱す

法隆寺本の首より二百三十九行に相當する部分を闕く

(存)

但首部爛
脱す

法隆寺本并に聖語藏本の首より三十行に相當する部分を闕く

(存)

但首部爛
脱す

(存)

(存)

各本の傳來を述べんに、法隆寺本は元完本なりしや知る能はずと雖も、書寫の年代は略之を推測するを得。即ち同寺に於ける書寫一切經中の零本にて、該一切經は保安三年三月廿三日勸進僧林幸等の願文に依れば、永久二年勝賢發願して、經論二千七百餘卷を書寫し、元永元年十月二日小田原上人を囑して供養せしが、其殘經論四千四百餘卷は空しく五個年の星霜を経るも、未だ成功を見ざるを以て、此に十方檀主に勸進して、彼願を滿し、新聖靈院に安置せんことを發願、書寫せしものなれば、今の三階佛法が書寫せられしは、永久、保安の頃なること疑ひなし。思ふに、開元錄の一切經は五千四十八卷、貞元錄の一切經は五千三百九十卷、然るに、此一切經は前後寫すところ實に都計七千一百餘卷なれば、入藏經は勿論、藏外の經疏論疏等をも寫したるべければ、中に三階教籍の存在する亦固より其所な

りこいはざる可からず。

聖語藏はもこ東大寺尊勝院の經藏にして、明治に至りて、正倉院に附屬し、帝室の秘庫と爲れり。尊勝院は天曆元年光智の建つるころにして東大寺要錄 諸院章華嚴の院家なれば、種々の書籍を藏するを以て有名なりき。現存の三階佛法は零本にして、傳來の徴す可き文献なしと雖も、書風より觀て、鎌倉時代の書寫なる可きこと明かなれば、法隆寺本より稍下るものなり。舊尊勝院聖語藏古經卷目錄に、左の如く見
ねたり。第三百廿五號

三階佛法

三卷

卷二 卷三 卷四

興聖寺本は京都市上京區寺内興聖寺の寫本一切經の中にして、卷子を改摺して五帖と爲せり。大正十二年三月四日、余が塵埃堆裏より發見するころに係り、實に現存三階佛法の最完本にして、上下の二卷に分てり。之れ即ち奈良朝の文書に、明三階佛法上下二寫とあるものに符合し、正しく古本の面影を止むるものなり。傳來明かならずと雖も、此の一切經は平安末、長寛、永萬、仁安、嘉應の頃、丹波國桑田郡小川郷石田村西樂寺の爲に、書寫せられしこと、現存の識語に徴す可きものあれば、斯書も亦同時の書寫なる可し。然るに、南山城海住山寺の名ある寫經も交り居りて、古經題跋に卷上、北野 興聖寺「又有大藏經、海住山舊藏也、有永萬長承等款識」とあり。尙後世の補寫并に版經を交ゆるを以て考ふるに、西樂寺經に他經を併せて一藏と爲し、ものなる可し。

次に説く可きは調卷の異同なり。法隆寺本は暫く措き、聖語藏本は現存の部分より推すに、一部四卷なりしなる可く、而も興聖寺本の一部五卷嚴密にいへば 上下二卷なること、末尾を齊うす

るを見るに、或は四卷、或は五卷隨意に分ちしを察す可し。探要記に集録第四末として引用する文が、興聖寺本の第五卷に現存するが如き又其の一證なり。左に一例を舉げて、
兩本を對照す可し。

(興聖寺本卷第五 下々)

第三段明一切第一階
佛法内一切利根衆生
位判常有一切兩種衆
生
一者明莫問一切凡聖
俱一種相似皆悉普是
一切一種戒見俱不破
一切利根正見成就一
切一乘根機諸佛菩薩
如上第二段一切第二

(釋淨土群疑論探要記卷第六 所引集録 第四末)

第三段明一切第一階
佛法内一切利根衆生
位判常有一切兩種衆
生一者明莫問一切凡
聖俱一種相似皆悉普
是一切一種或見俱不
破一切利根正見成就
一切一乘根機諸佛菩
薩

階佛法内明一切釋種
少分護戒淺深分齊大
般涅槃經行聖品明護
戒淺深分齊五行等具
足勝鬘經十受章内明
護戒時節長短分齊十
受等具足摩訶衍經初
品戒度明空有具足戒
六波羅蜜等具足大方
廣佛華嚴經十地品第
二地明十善戒三聚戒
等具足乃至餘一切甚
深大乘經内明一切戒
見俱不壞亦如是類以
可知又亦名已下此段
後破戒不破見文驗之

般涅槃經行聖品明護
戒淺深分齊五行等具
足勝鬘經十受章内明
護戒時節長短分齊十
受等具足摩訶衍經初
品戒度明空有具足戒
六波羅蜜等具足大方
廣佛華嚴經十地品第
二地明十善戒三聚戒
品具足乃至餘一切甚
深大乘經内明一切戒
見俱不壞亦如是類以
可知又亦名已下此段
後破戒不破見文驗之

所以得知

二者明一切破戒者俱

一種相似皆悉普是一

切一種破戒不破見一

切利根正見成就凡夫

一切一乘根機菩薩又

一切破戒不破見一切

利根正見成就凡夫一

切一乘根機菩薩位判

常不作莫問一切自他

皆悉普知善識一切最

大違情一切五逆一切

利根空見有見一闍提

增上慢衆生惡賊狗菩

薩六師外道惡魔旃陀

羅無慚愧僧

所以得知

二者明一切破戒者俱

一種相似皆悉普是一

切一種破戒不破見一

切利根正見成就凡夫

一切一乘根機菩薩

位判

常不作

違情一切五逆罪一

切利根空見有見一闍

提增上慢衆生惡賊狗

菩薩六師外道惡魔旃

陀羅無慚愧僧

されば開元錄等に三階佛法一部四卷吉水藏本、入藏錄下にも五卷とあり。といふも、奈良朝に上下二帛奈良朝に百十八紙といふも紙數現存の五卷本と大差なし。といふも同部五卷にして、開元、貞元に四卷、鎌倉に五卷を以て完本とすべきこと疑ひを容れず。奈良朝に百十八紙といふも紙數現存の五卷本と大差なし。而して、興聖寺本が末尾に、

大隋開皇十二年在京師眞寂寺撰

の識語を有するは、本書の撰述が正しく信行入寂前三年に在りしを證するものにして、信行最後の撰述たるに共に、三階宗典籍の隨一なることを物語る貴重なる文字なり。

三階佛法の流傳右の如しとせば、古來引用せられしことも少からざる可し。而して夫等の引用文と現存の三本との合否は、現存三本の價值を決定す可き重大なる鍵鑰ならずんばならず。今引用せる書として有名なる釋淨土群疑論探要記の引文を、一々現存三本に對照するに、時に略抄せる

點并に二三文字の異同なきに非るも、悉く能く一致し、誠に符節を合するが如し。以て現存三本の傳來の正しきを知る可し。左に對照表を掲げて參考に資せん。

三階集錄 釋淨土群疑論 探要記所引 と三階佛法 現存 諸本の對照表

一 集錄 第一云	佛滅度一千年已前 淨度三昧經等說	興聖寺本	第一
一 又云	佛滅度一千年以前 治附一切道俗	同	第一
一 同 第二云	又於大集月藏分經內 讀經誦經衆生	同	第二
一 同 第一云	佛滅度一千年以後 有見衆生在	法隆寺本	第一
一 同 第二云	文當法滅盡之時 邪惡第三階	興聖寺本	第二
一 集錄 第二云	文當一切佛 如大方廣十輪經說	同	第二
一 同 第一云	第二大段 如佛藏經說	法隆寺本	第一
一 集錄 第四云	又明復須就所爲衆生 一千年已後時說	興聖寺本	第四
一 又云	一切娑婆世界 所以得知	同	第四
一 又云	娑婆世界誦謗正法 不合得生淨土	興聖寺本	第五
一 集錄 第四末云	第三段明一切第一階 佛法內 無漸覺解	興聖寺本	第五

(抄略)

一 集錄 四云	第二段明一切第二階佛法 內 成就衆生	同	第四
一 又云	則由利根 根機並在	同	第四
一 集錄 第一云	一切第三階佛法內 三乘根機衆生	法隆寺本	第一
一 又云	如迦葉經 一切諸佛大賊衆生	同	第一
一 又云	文當義當佛滅度一千年以後 破戒無戒兩種衆生	同	第一
一 集錄 二云	唯得 不在其限	興聖寺本	第二
一 集錄 三云	一切第一第二兩階佛法內 一切一種衆生	同	第三
一 集錄 云	又明一切三階佛法 而授與之者亦是	同	第五
一 集錄 一云	七者明常學 一切有眼衆生佛法	法隆寺本	第一
一 集錄 二云	佛滅度一千年以後 亦名不淨說法	興聖寺本	第二
一 集錄 第三云	唯歸一切一身別三寶 一切不善解行等	同	第三
一 集錄 二云	法華不輕菩薩品 上下分齊	同	第二
一 又云	法華經不輕菩薩品 當來佛相	同	第二

備考 右は興聖寺本を主とし、開くる所は法隆寺本に依りて對照したるものなれば、興聖寺本、法隆寺本、聖語藏本の中、二本若くは三本の重複せるところには、他本(即ち興聖寺本以外の二本)にも存すること勿論なり。

以上、三階佛法に就いて、大略の説明を卒へたり。想ふに、

三階宗は支那佛教史上、地藏崇拜を唱道する特殊の宗教として、事蹟の幾分を留めしも、典籍の備はらざるが爲に、其主張と真相とは揣摩臆測に一任するの外なかりき。近年燉煌の發掘ありて、斯宗典籍の幾分を獲たりと雖も、悉く斷簡に過ぎず。然るに、圖らざりき、近く京洛の地に於いて、斯くも完全にして而も重要な寫本の存するあらんことは。余興聖寺本を獲て欣喜措かず。此に三本を對校して、千載の逸典を再び世に出すを得たり。本書文辭澁晦、先哲既に論あり。解題に、校訂に、紕謬なきを免れざる可し。而も余が公刊を敢てしたるは、一に東洋文献の湮滅を愛惜するの情、轉切なるものあるが爲めのみ。希くは、第三卷首の爛脱を發見し、眞に完璧を爲す日の速に來らんことを。

(大正十三年五月、洛北青嵐居に於て記す)

凡 例

- 一 本書は奈良朝の文書に、上下二局とあるに基き、興聖寺本に據り、上下二卷に分てり。
- 一 本書は興聖寺本を底本とし、法隆寺本、并に聖語藏本に依りて、其の闕けたるを補へり。
- 一 興聖寺本は往々破爛あるを以て、其の部分に限り、更に他本を重出して對照に便せり。隨て此の部分には校異を附せず。
- 一 聖語藏本の一斑を想像せしむる爲め、重出に拘らず、各卷の首尾を撮影して編入せり。
- 一 校合は極めて忠實を期し、明に誤寫なりと思はるゝものご雖も、文字に異同あるに際しては、一々之を掲書せり。例へば、合は令、耶は邪、士は土なること明かなれども、一々掲書せるが如し。

一明に重寫なりと思はるゝ所も、異同ある限り、之を掲書せり。

一明に落字或は衍字ありと思はるゝ所は、初め私考を附して掲書せしも、後之を削れり。例へば、「地藏輪經」は明に「地藏十輪經」、「大方魔」は明に「大方廣」なるべき場合の如し。

一古字、俗字等の異字は初め之を掲書せしも、活字を新鑄せざる可からざるに至りしを以て、止むを得ず、之を削除し、一切之が掲書を見合せたり。

一容易に古字、俗字等の異字と推定するを得るものと雖も、明に字形を異にするものは、之を掲書せり。例へば、丘は兵、西は血(血の異字の誤寫か)の場合の如し。

一校合に用ゐたる略稱左の如し。
一法本 法隆寺本三階佛法の略稱

一聖本 聖語藏本三階佛法の略稱

一興本 興聖寺本三階佛法の略稱

一要記 釋淨土群疑論探要記の略稱

一俱 「法隆寺本三階佛法并に聖語藏本三階佛法俱に」を意味する略稱

一釋淨土群疑論探要記は第六・第七の兩卷に引用せる三階集録を以て對校せり。而して對校に供せしは、淨土宗全書

第六 所收 明治四十一年十一月刊行 の本なり。

一本書の刊行に當り、原本の貸與、閱覽、并に撮影に關し、左の諸氏は多大の同情を以て、便宜を與へられたり。此に謹みて芳名を録し、感謝の意を表す。

奈良帝室博物館長 久保田鼎氏

法隆寺貫主 佐伯定胤師

興聖寺住職 日種讓山師

奈良帝室博物館正倉院寶庫掛

大宮武麿氏

凡四

(次第不同)

影印三階佛法 上卷

目次

卷 第一

一 法隆寺本第一

二十頁

一 興聖寺本第一

廿八頁

(但、此中五頁は法隆寺本と重複す)

卷 第 二

目二

一 聖語藏本第二

二 頁

一 法隆寺本第二

十二 頁

(但、此中二頁は聖語藏本と重複す)

一 興聖寺本第二

七十八 頁

(但、此中十三頁は法隆寺本と重複す)

一 聖語藏本第二

二 頁

(但、興聖寺本と重複す)

以 上

三 階 佛 法

卷 第 一

一 法隆寺本

二十頁

要記引一切第三階
佛法乃至一切三乘
根機衆生(四十八
行)○皆要記作階
根下要記有空字



要記無見字

要記無提字

要記無如字

益下要記無經字

文義最大要記無大
字

經下要記無同字

三階佛法卷第一

人集錄明一切第三階佛法內准除一切
大能根衆生兩種極平信已外一切利根衆
生皆悉善是一切利根見有見衆生何以故
明如大般涅槃經說文當在問之義為一
切第三階佛法內一切利根見有見衆生何以故
根皆悉善盡一闡提衆生說以此文驗所
以得知一者明如迦葉經說文當于佛本能
迴得一切利根見有見衆生二者明如
佛藏經說文當于十方億佛不能迴得一
切利根見有見衆生三者明如摩訶衍
經佛藏經思益經等三部經明一切利根有
見衆生文義最大廣家大具足之當元量元過
諸佛菩薩等不能迴得一切利根見有見
衆生四者明如大方廣十輪經大集日月藏
分經與雜阿含經同善說文當一切諸佛

切下要記有法字

衆者要記作衆生○者下同何以故乃至衆生卅二字恐重寫○者下同無文當乃至多故十二字

說下要記作文○同無於經文內文當六字

耶要記作邪

要記無能字

要記無度得二字○說下同有名爲惡賊四字

要記無間字
耶要記作邪

舍利要記作金剛

耶要記作邪

菩薩皆悲善不能迴得一切利根空見有見衆生五者明知大般涅槃經說天當一切須皆悲善不能迴得一切利根空見有見衆生何以故明從千佛乃至一切佛一切法皆皆悲善不能迴得一切利根空見有見衆生又當善准由一切解行病等轉轉多故如上所引經等說又拉經天內天當或在單就一切利根空見衆生說或准單就一切利根有見衆生說善當莫問當有一種相似如解卷內廣說且名一切利根空見有見衆見說就九種人知大般涅槃經迦葉經佛藏經大方廣十輪經等說且名一切利根空見有見衆十五種道如大集月藏分經與雜阿含經同大方廣十輪經等說且名一切利根空見有見衆九十六種道如摩訶薩那經所以故明天當佛滅度五百年已後天當十佛不能得

度得一切衆生特有四部經說一部經名爲惡賊名爲狗菩薩一部經名爲佛上揚聲一部經名爲惡魔一部經名爲九十六種道與廣一切佛法以此之驗所以得知如迦葉經法苑經大般涅槃經摩訶薩那經等說且名一切利根空見有見世間根枝衆生知大般涅槃經說且名一切利根空見有見邪見成就衆生如大方廣十輪經說且名一切利根空見有見顛倒衆生如下第六天段內說且名一切利根空見有見外障障障衆生如大方廣十輪經說且名一切利根空見有見所與地獄衆生亦名一切利根空見有見誹謗一切正法毀譽一切賢聖衆生亦名一切利根空見有見煩惱障同稱如舍利衆生如大集月藏分經等說與雜阿含經同且名一切利根空見有見邪見或就顛倒行壞龍壞一切

要記引七者乃至衆
生佛法(十七行)
要記無不字○覺同
作學○等下同無一
切二字

三乘根機衆生所以故天當由信元如世
未得聞佛法已前已大有及得聞佛法已
未於一切世間內乾一切三階佛法內一者明
常編學一切見法一切有見法二者明常
自誇已一切惡常遠見他一切惡三者明常
不見自身一切惡以一切善從一切惡常見
自身一切善以一切惡從一切善四者明
當見他一切惡以一切善從一切惡常不見
他一切善以一切惡從一切善五者明常不
受佛道是一切惡夫一切合受惡一切合受
若常受不捨六者明常不捨佛道是一切凡
夫一切合捨好一切合捨學常捨不棄七者明
常不覺一切第三階佛法內一切十四階善切
取下下得惡得苦善真善正佛法信衆
生新惡修善解行等常正常不捨常不誹謗
一切正法常不毀謗一切賢聖乃至一切凡等

唯下要記無唯字○
同無故字

要記無不字

要記无常耶二字

要記无隨字

耶要記作邪

要記引如迦葉經乃
至大賊衆生(十二
行)
行要記作衍
第下要記無第字○
同無大字○分同作

常一向唯在純益无損佛法故上名常一向在
純偏不學一切生皆衆生佛法故八者明常
在學一切第一第二兩階佛法內一切七十種等
所說一切寂上上得收得學別真別正佛法
信衆生新惡修善解行等常正常不捨常不誹
佛常訪法通凡及聖文當常行誹謗諸如
下第二天改七種損陀羅道俗法內說常向
在純損无益佛法故在淨位隨无量无边劫
懺悔不可得除阿鼻地獄等內得德一切諸
佛菩薩等善知識接邪歸正已去速作一切
若投涅槃故少回源不在其限亦名常一向
在純偏學一切有明衆生佛法故在淨一切
聖人一切利根真善正見成就凡夫不在其
限如迦葉經佛藏經大般涅槃經大方廣十
輪經大集目藏分經與雜阿含經同所許
如下第一大段內所說分部等說其非是

八分二字
常要記作當
根根要記作利根

有下要記有見字○
速同作違

要記無亦字

要記無天人中乃至
一切世間二十二字

要記無是字

一切三乘根機及涅槃善根衆生義常非是
一切根根真善正見成就三乘根機及涅槃善
根衆生如大方廣十輪經說此是說一切利
根空見有一切三世諸佛悉家速滅一切
佛法衆生知像法鼓鐘說其多部維義同且
名是一切利根空見有見一切世間天人中
大賊衆生且名是一切利根空見有見一切
世間悉衆生且名是一切利根空見
有見一切諸佛大賊衆生如佛藏經說此是
以前驗後說且名是一切利根空見有見一
切佛一切經符善善不能救得衆生如大方
廣十輪經大般涅槃經等說此是說一切利根
空見有見機故一切諸佛衆生如大方廣
十輪經說莫問一切善惡持戒破戒皆善普
名一切厥或衆生如下第一大段內持莫問
淨一切三寶度一切衆生新一切惠學一切

善解行善多乃至未得法思已未時善普
常一向在得法偏學同一切世間內一切第三
階佛法內一切寂大能根衆生兩種極早
佛常一向在得法分別一切廿四段善一切
寂下下得思得善善真善正佛法僧衆生新
惡脫善解行善常正常不結常下非謗一切正
切正法常不毀善一切賢聖乃至一切
凡夫善常一向在能益不損佛法止先
常一向在能偏學一切生自衆生佛法如
下第二大段未第一行以故一切廿四段善
一切善真善正佛法內說常一向在能偏不
得學同一切世間內一切第一第二兩階佛
法內一切聖人一切利根真善正見成就凡
夫常一向在得法分別一切七十種等所說
一切寂上上得好得學別真別正佛法僧安
生新惡脫善解行善常正常結常諸佛常

根空見有見衆生在又於一切利根空
見有見衆生內莫問一切善惡持戒
破戒皆悉善名破戒不破見已見成就
凡夫一切三業根機悉全在如上如下此
段內釋多七分應如於上五如此段初疏論
如一切偽寶內猶有真寶在一種相似喻如
金銀七寶及銀石等一切真元價寶皆悉
善盡准有一切偽寶為元價寶在准有一切赤白
銅鐵白鎔銀錫為元價寶在一種相似如摩訶
寂此勝定法與多部經法同像法決疑經與
多部經法同雜阿含經明雜當卷內說大集目藏
分經與雜阿含經同已上五部經又當佛
度一千年已後佛藏經薩遮尼乳子經大方
廣十輪經已上三部經又當佛滅度後善當佛
滅度後一千年已後或一千五百年已後
如下第二大段內說又當善當佛滅度

要記引文當義當乃
至兩種衆生(十五
行)而自盡乃至一
人至第二大段內說
唯十五行全闕之即
普滅直續除於一切
最大純根衆生云々

一千年已後一千五百年已前一切利根或
見俱不破已見成就衆生在准有兩人在如摩
訶摩那經說准有兩人三一人一人在佛藏經
說又當義當佛滅度一千百年已後如
下第二大段內說於一切利根衆生內一
切利根或見俱不破真善正見成就衆生
問一切凡聖皆悉善滅盡乃至一人且无有
准有一切利根空見有見衆生莫問一切
善惡持戒破戒皆悉善名一切破戒衆生
在何以故一者明又當一切諸佛菩薩不能
救得准准一切利根空見有見衆生已外更
无有一切諸佛菩薩不能救得者明准為
一切破戒比丘作一切奇舍等特如大方廣
十輪經說二者明准有一切破戒无或兩種
衆生在如於段下說四者明一切多聞特已
過准有一切福德特在如大集月藏分經說

僧下要記無僧內二字

地要記作他○於戒人在同作持戒人者

輕要記作輪

要記無又字○同無佛字○二同作一

後下要記無一切二字

普下要記有名字○耶同作邪○同無盡亦名乃至或盡九字

其雜阿含經同五者明文當義當一切正法
不行特文當義當有上切三種顛倒眾生特
知大薩尼乳子經說以此文驗所以得知又
乞當佛時度後義當佛時度一千五百年已
後知下第二大段內說在淨於一切寂太此
根衆生兩種應羊僧內獨有女分不為求
一切名聞不為求一切利養不為求一切財
地等故學一切佛法正善真正於或人在不
在其浪文當遺最太此根衆生勸化營理
事與此家人作和上河閣梨學習誦等如
大方廣十輪經說支當福德特知大集月藏
分經說與雜阿含經同又文當佛時度二
千年已後一切道俗莫問一切利根鈍根皆
悉普耶見顛倒盡且皆皆悉普破或盡
自有一切破或无或兩種衆生在知大集
月藏分經說與雜阿含經同在淨其佛頂

佛身佛身及鉢殘功德等有餘或從十方來
或從天上來暫起得道即滅者不在其限
未自親見經文在經義推說又明在淨一
切行法行王知大薩遮尼乳子經說以名
一切國王且若一切唯頂利利王知大方廣
十輪經大般涅槃經大薩遮尼乳子經等
說並名一切人王知佛藏經大集月藏分
經與雜阿含經同等說不定若能得常一
向在純偏依一切第三階佛法內一切外四
段等一切寂下下得西得若善真善正佛法
僧衆生所應修善辭行等事正常不錯常
不誹謗一切正法常不毀訾一切賢聖乃至
一切凡夫等常一向在純益无損佛法且若
常一向在純偏學一切生旨衆生佛法任持
一切三寶任持一切國且利益一切衆生不
在其限知大薩遮尼乳子經大方廣十輪經等

要記引第二大段乃
至佛藏經說(七行)
○等同作第

度下要記無得字

要記无經字○後下
同有千年以後四字

度下要記无得字

該

等三大段明驗一切第三階佛法內佛滅度
後時節分階義一者明文當佛滅度五百年
已後又當千佛不能得度得一切眾生時如迦
葉經說二者明文當佛滅度後又當百千
萬億佛不能得度得一切眾生時以上佛身
少次第驗之義當佛滅度一千年已後知佛
藏經說三者明文當於末世時義當佛滅度
後又當義當一切正法不行時又當義當在
有一切三種顛倒眾生時如大菩薩尼乳子
經說又當義當一向不為一切持戒比丘
正作一切舍等時一向不為一切持戒比丘
作一切舍等時唯願在寫在打作數之
當一切佛皆悲普不能得度得一切眾生時
如大方廣十輪經說又依餘經說又當義當
一切利根空見有見眾生由偏學一切多聞

智慧故一者明能得增長一切種種惡皆
盡善盡時以修驗前說止是以善驗惡說二
者明能滅一切四乘善根善若善若物唯誅
一切利根真善正見成就凡夫及上即是
在其根知大集月歲分經說與雜阿含經同
三部經俱明家大富貴俱明家大利根俱明
家大多聞俱明道俗俱明滅三寶俱明滅
國王俱明能眾生俱明治罪一切破戒比丘
俱明不得嗔罵打縛一切出家人若嗔罵打縛
一切出家人莫問持戒破戒一種相似皆悲
善不先道阿鼻地獄等俱明不得遺一切出
家人還俗若遺一切出家人還俗莫問一
切善惡持戒破戒一種相似皆悲善不先道阿
鼻地獄等俱明墮人出國而去俱明一切善惡
大力諸不獲其因俱明悔陀羅此一俱明內在
一非經文少不足十三種俱明驗之義同一種

相以俱明一切正善佛法皆悉善盡在有一切
耶善佛法在餘有種種義如經內說以上
佛多如次第驗之義當佛滅度一千五百
年已後如大集月藏分經與雜阿含經
同大菩薩尼乳子經大方廣經等族又
如大集月藏分經說與雜阿含經同文當
此勤善善當明一切菩薩皆悉善不能
得度得一切眾生將驗前一切諸佛皆悉
善不能得一切眾生只是善當佛滅度一
千年已後又大方廣十輪內明作五逆四重
非謗正法毀世賢聖衆生若未出家不得
出家若已出家還傾出者不違還俗在道
傾出寺外聚落外國五外何以故明以上十
四種俱驗之所以得知又上十四種俱明
經父雖少有少不同一種相以又明如大般涅
盤經說父當已上人語引經說十一林佳明有據

藏方等經與元有據藏善男子若我弟子
受持讀誦善寫漸說方等經與恭敬供養
尊重讚美當知今特佛法不滅又已下在是
人語引經何
以故一者明文當義當由一切十一部經內
唯明一切第二階佛悉善善不明一切第
一階佛法一切第三階佛法皆悉善善
以上經父不聽依所以以上經父不聽依所以
以此經父復導有據藏如四所合經律文
等說二者明文當義當由一切方等經典內
皆悉善善是明一切三階佛法盡故於大般
涅盤經一林內文義家大具足乃至餘部
等且知是又文當義當一切三階佛法皆悉
善善由有一切利根或見俱不破正見
成就聖人一切利根真善或見俱不破正
見成就凡夫一切利根破或不破見正見
成就凡夫一切一乘根找諸佛善善與作根

本故所以皆悉普得常任不滅知一切三
階佛法內所有一切薩薩學一切菩薩行
而復其一切第二第三兩階佛法內一切道
俗同而不同者義當是一切利根正見成就
一乘根機善薩如一切三階佛法所說經等
善說又何以故明唯有一切利根一乘機諸佛
菩薩能得任持一切三階佛法所由義如
大方廣佛花嚴經大般涅槃摩訶衍經
等說又明由學一切第一階佛法內一切
甚深大乘佛法故一切佛法皆悉普得當
任不滅者一者明文當義當為一切第一階
佛法內一切利根或見但正見成就即
人一切利根真善或見但正見成就凡
夫一切利根破或不破見正見成就凡夫
一切一乘根機善薩說二者明文當義當
為一切第二階佛法內一切利根或見但

不破見成就即人一切利根真善或見
但正見成就凡夫一切利根破或不
見
不破見正見成就凡夫一切三乘根機衆生
生說知一切第一階佛法內一切甚深大乘
經善說明同得聞甚深大乘經一切善薩
一切聲聞緣覺當特即得道一切利根空
見有見六師外道等初將不信佛後時回
心即得道等者皆悉普是三若明文當義
當一切利根或見但破空見有見衆生若學一
切第三階佛法內一切一乘佛法即得任
持一切佛法在淨學一切一乘徹倒成就不
退已後學一切第二兩階佛法不在其內
若明文當義當一切利根或見但破空見有
見衆生若學一切第一階佛法內一切甚深
大乘佛法即不見其一切佛法皆悉普盡五
若明義當以上連三卷經文次第驗之不聽

一切諸法菩薩等為一切利根或見俱破空
見有見衆生且名十惡衆生說一切第一階
佛法內一切甚深大乘佛法在首為說一切
第三階佛法內一切寂大多要一切寂大多
苦生死流轉法知大方廣十輪法乃至為
一切利根空見有見耶見成就凡種人
所說法無依大般涅槃經等說以此又
驗所以得知一切第一第二兩皆衆生在
由學一切第一階佛法內一切甚深大乘佛法
故得任持一切佛法常任不滅一切第三階
衆生唯由學一切第三階佛法內一切大乘佛
法一切大乘佛法故得任持一切佛法不
滅不即一切利根正見成就衆生常有
一切菩薩一者明常有
一切利根或見俱不破
正見成就聖人或作一切利根聖人亦作一切根
正善正見成就凡夫與一切利根正見成就衆生

二興聖寺本

二十八頁

(但、此中五頁は法隆寺本と重複す)

圓通山興聖寺

驗之義百佛口

後如大蓮

一後與

大蓮遮尸子後大方廣經

又如大集月藏分經說無難阿舍經

又當亦勅菩薩義當明一切菩薩

志音不能得度得一切衆生時

一切諸佛皆志音不能得一

是我當佛淚

廣十輪內

普賢聖衆生若未出不得出

出家損出者不送還俗准遺經

聚落外國主外何以故明以

檀俱驗俱之所以。大上十四

明後文雅少百

義同一檀

似又明如大般涅槃經說文當

以下人說才位
說以下在是位

說十一部經則有壞滅方等經典元有壞

滅善男子吾我弟子受持讀誦書寫解

說方等經典恭敬法養尊重讚美當知余

時佛法不滅

又二下在
該引經中

一者明文當義

由一切十一部經內一切第一階佛法

普盡不明一切第一階佛法一切第二

階佛法皆盡普盡所以上位文不聽依所以

此段經文復尋有壞滅如四阿含經律文等

說二者明文當義

一切方等經內皆

盡普具足明之一切三階佛法盡故於大

般涅槃經一部內文義最大具足乃至餘部

等亦如是又文當義當一切三階佛法皆盡

惟由有一切利根或見俱不破正見成就取

人一切利根真善見見具不破正見成就凡

是

一切利根破或

一切未根根諸佛善

善善得當位不滅如一切三階佛法內所有

一切善行學一切善行而後與一切第三

第三兩階佛法內一切通位同而不同者其

當是一切利根

一切三階佛法能說

有一切利根一一乘

持一切三階佛法所

第一階佛法內一

佛法皆盡普得當

為一切第一階佛

破正見成就聖人

破正見成就凡

破正見成就凡

見云見成就凡夫

三根機善處說二音

明文當義當為一切第一階佛法內一切利
根或見俱不破正見成就聖人一切利根真
善或見俱破正見成就凡夫一切利根破
或不破見正見成就凡夫一切三乘根機衆
生說如一切乘一切法去內一切甚深大
乘住一切善處一切聲聞緣覺當時即得
通一切利根空見有見六師外通等初時不
信佛後時迴心即得通等皆善善是三音
明文當義當一切利或見俱破空見有見衆
生善學一切第三階佛法內一切乘佛法
即得住持一切佛法惟除一切小乘微倒成
就不退已後學一切第二兩階佛法不在其
階四音明文當義當一切利根或見俱破空
見有見衆生善學一切第一階佛法內一切乘

大乘佛法即不覺滅一切佛法皆善善盡五

音明義當以上強三卷後文次乘驗之不聰

一切說法善處善為一切利根或見俱破空

見有見衆生亦名十惡衆生說一切第一階

佛法內一切甚深大乘佛法住高為說一切

第三階佛法內一切最大多惡一切第一切

最大多善生死法轉法如大方廣十輪經至

為一切利根空見有見成就九種人所說經

兼依大般涅槃經等說以此文驗所以得知

一切等一第二兩階衆生住由學一切第一

階佛法內一切一切甚深大乘佛法故得住

持一切佛法常住不滅一切第三階衆生住

由學一切第三階佛法內一切大乘佛法一

切小乘佛法故得住持一切佛法不滅又明

一切利根正見成就衆生希有一切六階一

聖人下法本有或作
一切利根聖人或作
一切根真善正見成
就十九字○根利法
本作利根

法本無夫字

薩下法本有由字

槃下法本有經字○
等同作第

者明亦有一切利根或見俱不破正見成就聖
人凡夫與一切根利正見成就眾生作一切善
教軌則法故或作一切利根空見有見六師
外通等與一切利根空見有見眾生作一切
善教軌則法故由利根故得通最疾如一切
三階佛法所說在等說二音明亦有一切利
根自善或見俱不破正見成就凡夫一切利
根一乘根機善產利根故得通最疾已上說
一切自利行說已下說一切利他行說亦作
一切利根聖人亦作一切利根真善正見成
就凡夫亦作一切利根空見有見六師外通
善如大般涅槃乃至如一切善一階佛法
內一切甚深大乘經等說三音明亦有一
切利根不作一切利根不作一切六師外
通等不作一切五逆罪不誹謗一切正法

犯下法本有多或犯
三字

利下法本有根字

持地法本作地持○
見同作免○來同作
未

根利法本作利根

不毀譽一切賢聖不誑一切空見有見等
惡一切四重罪或犯少不破或不破見正
見成就凡夫一切利根一乘根機善產由
利故或隨地獄賊鬼畜生暫入即得出又
由利根故雖隨地獄賊鬼畜生亦得聞佛法
亦得為一切眾生說佛法又由利根故得通
最疾如大方廣佛華嚴經文音明劫盡空善
產持地論文音明種性善產未見入地獄未
曾有任文音明畜生說法乃至於一切地
獄等內得聞諸佛善產說法音亦皆善善
是得聞佛法攝四音明亦有一切利根真
善少分或見俱不破正見成就凡夫
一切三乘根機眾生由根利故得通最疾
知四阿含經律文等說如一切三階佛法內
一切三乘根機眾生得聞佛說法得通者

重罪法本作四重罪

餓法本作餘

諸法本作說

帝法本作常

但法本作值

亦皆志香是五者明常有一切利根空見有
見象生作一切五逆罪犯一切重罪誹謗
一切正法毀譽一切賢聖三逆一切空見
有見尋無破或不破見少分正見成就凡
夫一切三業根皆象生由利根破我 隨
地獄餓鬼畜生暫入即得出又由利根
故雖墮地獄餓鬼畜生亦得聞佛法亦
得高一切象生諸佛法又由利根故得
通氣疾初時不信佛後時迴心即得通
如大方廣十輪經說如上第四子取說
上來五階寂少准如維止止如大般涅槃
經注等說六者明常有莫問一切善
惡持戒破戒皆志香在一切破戒象生
如上第一大段內釋又一一切利根空見
有見象生由利根破得但一切乞量乞

得法本作行
衍法本作經

无下法本有量无二
字

法本無得字

邪法本作耶

法本無義當二字

邊三寶亦能度得一切乞量乞過象生
亦能新得一切乞量乞過象生亦能學得
一切乞量乞過解得等攝不乞誹謗一
切正法毀譽一切賢聖如摩訶衍經佛
藏經大集月藏各經無難阿舍任同大
方廣十輪經大般涅槃經等說又從阿
鼻地獄尋得出已後於乞量乞過劫无
邊佛所學當心一切出世間根機藥病
一切正解一切正行等皆皆志香得
得微到成就但使象生即不覺象生一
切六師外道等一切邪見家何以故明
由一切修習果未盡初時不信佛後時
迴心即得通皆皆志香是文當義當知
佛功德通時所度一切利根空見有見
六師外道等皆志香是如一切三階一佛

法本無佛字

由法本作界

佛法所說修持此一階級多如十方
 由所有地上少舍商一種相似如大
 乘涅槃修持說又此段亦名出一切利根
 空見百見衆生從是修持世身乃至未
 得法界已未修一切世間內於一切三
 階佛法內皆是顛倒而由義如下第二
 大段末第二何以故一切十四段等一切
 別真別正佛法內說文明一切利根空
 見百見衆生由從是修持世身得聞佛法
 已未乃至得但量量是過三寶等心
 未當直認上一切利根六階正見成就
 衆生一切利根正見成就果由利根故莫
 問邪正但使得見佛聞法隨一得得通帶
 一向不認一切第六階一切利根空見
 百見衆生一切利根成就自由利根故

但法本作值

耶法本作聖

法本無義字

說法本作語

三下二字法本作下

一切思斷不可得一切阿鼻地獄等苦
 受不可盡一切當心根機樂病一切正
 解一切正行學不可得成就如修養弟
 一文段第十五子段內返部修持等說
 天明有三部修持高明一切顛倒法一
 昔明如文產迦尼包子後說文當於未
 世時義當佛滅度後文當一切正法不
 行時文當修有一切三種顛倒時已上人
說三下段各段已下三
外修者皆是修文說一昔明云何名樂
 於非法貪心吞言次五於十不善惡
 業通中生於樂心是名樂於非法
 貪心二昔明云何名為顛倒貪心白
 己手力得諸資生依時節得依正法
 得依如法得不生是心更求他財如是
 名為顛倒貪心三昔明云言大師云何

是法本作足○財同
作則

網法本作納

為耶法羅因之所淨心吞言大王我諸
外通非義論中其義想也我吞言論
生利空想非法中生是法想我未
世時非是智者所作論中以高正為生
於信心量執耶見以為福德名耶法羅

網法本作納○繫下
同有經說二字

法本初無說字

洞淨心已上人語二者明加大般涅槃已上人

見我常見元常元常見常樂見元

法本無不淨二字

樂見樂淨見不淨不淨見淨不滅見滅

法本無非見二字

滅見不滅眾見非眾非非見眾見眾輕

重上法本更有重字

眾見重眾見輕眾見非眾非非見

未通見非通非通見通實是善提見非

善提實非善提認見善提善見非善集

見非集滅見非滅實見非實是世諦

見第一義諦第一義諦見是世諦端見

世諦法本作世部

魔下法本闕十七字

非端非端見端以真佛語名為魔語實
是魔語以為佛語如是之時諸佛乃

下法本作上

說大涅槃已下人語三者明如勝後過

半卷已後說文當若過若不及歸義如

任又此段在明一切顛倒卷第一又明一切十二部

任內一切佛法等不定者皆善看通

或或昔義者是不定語如大方廣

十輪任第三卷未廣說又明文當

義當佛滅度後文當義當一切正法

不行時文當義當准有一切三種顛倒

象生時教一切行法行王法界一

切通依眾輕重法淨舍應法歸義如

任說

法法本作治

齊法本作廣

第一段明教一切行法行王法界一

俗人內返年眾生眾輕重法淨舍應一

年法本作羊

化法本作他

者下法本有明字

法本無八字

羅法本作罪

命不下法本有得字

裝下法本闕十六字

弟法本作等

第三段以下法本別

者明白返二者明教化返三者明經王妻

藥四者明羣王資生五者明破王所應

作事六者明侵奪王妻宮女七者建王

命八者明出王密詔九者明餽伺國主十者

明罵王十一者明毀譽王文高隆不斬命

不壞諸根得繫閉牢獄枷鎖打傳集其

資生墮債他處弟二段一切行法行王

法界一切破或出家人羅刹宜法淨分

應更依經注說莫問北罪莊重一種相

似文書不得斬命不割壞一切諸根不

得自問不得標鏢不得搥打不得脫裝

裝不得嘉其資生之物得奇責得驅

債如大產遮尼乳子後說心下並依餘後

說或驅出弟或驅出聚落或驅出國如

大集月藏各後說與難阿舍後同弟三版

明為一切行法行王辨一切通俗耶心分階

一者明王請一切通俗耶心分階文當

心下人誤引後說王言大所苦彼國王問

他元智國內多說沙門所行各苦平相

是非各各自言我是沙門循正通者能

利衆生我是福田應受供養如是各各

爭相是非云何得知是真沙門非真沙

門是正通是耶通是如法語非法語下已

人誤引二者明在有一切佛弟子出家

人是真沙門文當心下人誤引後說大玉

當知有大沙門釋迦子出家焉通得

神通證有大名稱如未應正通知彼

諸弟子比丘比丘尼於彼瞿曇法中

住者是真沙門行正通利益衆生是福

田者能知正法是如法說者心下人誤

已下法本作已上○

說下同無已字

說法本作諸○門下

同有婆羅門三字

門下一字法本作備

唯是下法本有經字

釋法本作斷

門下法本有能字

法說法本作法語

法說法本作法語

法說法本作法語

法說法本作法語

下法本作上○引經
下同有說字
餘語法本作除諸

依下法本有餘字

著下法本有染衣或
名著五字
經下法本有說字○
經下同有文字

三者明義當一切在家人皆志普是
一切耶見衆生皆志普非是真沙門
文當已下人語引任已
下在是任文說大王當知除沙門瞿
曇法外餘無一切聲羅門等是名耶道
非實沙門非法語皆不應取語何以故
大王當知彼云非法云何能得如法之
語已下人語
引任說如大薩遮尼乾子任說
又明已下兼依任說文當義當就一
切出家人普真普正刹願或名者製
染邊說何以故明文當已上人語引任
已下在是任說亦是
過去未來現在指佛大悲力故為破利
查一切衆生有二種護持第一為破
紹三寶種令不斷他出家指通利降蹟
驗而看製染表第二說應四諦趣向三乘
如是二種如未護持非聲聞辟支佛所

當下法本有佛字

衆法本作最○樂下
法本有別真二字

悉下法本有普字

說下法本有後字
法本無年字

能持也乃至百千帝釋梵天亦不能
持百千那由他轉輪聖王亦不能持已下人
語引
任如大方廣十輪任說又於上兩種
任持一切三寶壽不減內義當減度一千
至已後應四諦趣向三乘一種任持一切
三寶任持一切國土利益一切衆生
壽不減一切聖人一切利根真善正見
成就凡夫一切衆生上得好得樂別正佛
法信衆生新惡能善解行壽壽減盡如
上乘一大段內所說八部任前五部任
文當佛滅度一千至已後說三部任義當
佛滅度一千至已後說乃至一切佛法
皆悉普滅盡已未准有一切利根實
見百見衆生一切普真普正刹願或
著深衣或名普製染信任持一切普真

二下法本有部字

卷下法本有經字

所下法本有以字○
普下同有眞普二字

王法本作主

頭下法本闕五字

至下法本有成字○
第同作等

普心取像佛住持一切音眞音心十二
住住卷文法住持一切國土利益一切
衆生不勝在何以故明一切音眞音心
取像佛一切音眞音心十二部住住
卷住文法住由一切音眞音心剎頭或名
普深衣或名普袈裟信處得所一切音
心剎頭或名普深衣或名普袈裟信處
是住持一切三寶壽根本大王所以一
切通俗一向住住偏礼法養守護一
切音眞音心剎頭或名普深衣或名
普袈裟信者一者明得滅一切罪障
取疾二者明得一切出世間聖道果寂
疾三者明得生一切淨土寂疾此一
段住上住下義推說四者明得常
不離一切三寶乃至佛乘寂疾又於

疾法本作病

衆下法本有生字

法法本作治

出下法本有家字

當法本作說○初下
同作上

一切第三階佛法心與一切利根空見
有見衆生過去一切出世間心善根
機相當現在一切出世間心善藥疾
相當佛法內隨阿耨陀佛法皆悉普元
有無壽者何現一切第二兩階不與
一切利根空見有見衆過去一切出世
間心善根機相當現在一切出世間
心善藥病相當佛法壽如大集月
藏分後與難阿舍後同法華後大方廣
十輪後壽說
第四段明法壽作惡國王住一者明
住遠自法壽如住說二者明住遠出人
法壽文當已下人語引住說
已下住是法文說住王元智不
能如是自思惟昔應於國內處處推
求有大智惠善知王論常行心法能

偈法本作渴

當法本作常○智同
作知

說下法本更有經說
二字

如實語諸所門壽王應自往彼所門所
若不自往當遣大臣王子貴人人所重
者詣彼所門宣王偈作尊室之心
將至王所若彼來者王應速迎禮拜
門說盡恭敬心盡尊室心問所門言
何壽善行何壽惡行何壽法能有利
利善行何壽法元有利善我聞能
元有智惠願為我說上人說次下後
文義當出有大智惠沙門大智惠多
少淺深分階惟明教一切行法行王
不殺生不偷盜不邪淫不忌諱不兩舌不
惡口不待語不貪取不瞋恚不耶見
即名行法行王更不說餘法如大產遮
片乾子往說

第五段明一切行法行王善道一切出

多法本作分

人下法本有一字

則法本作財

明者法本作者明

血法本作西

明法本作問○苦下
同有无間二字

家人還俗若打一切出家人若殺一
切出家人得罪輕重淺深多階文當
於一切出家人莫問一切善惡持戒皆
善破戒皆惡若一種相似若馳一切
出家人還俗若打一切出家人若殺一
切出家人若明文當攝在惡逆衆生
分中上品治罰何以故作根本極重
罪故二者明文當無破壞塔寺梵境住
像取一切三寶則物一種相似三者明
文當與誹謗一切三乘法一種相似四
明者文當與惡心殺心殺阿羅漢破和合
僧出佛身五一種相似五者明文當趣
大地獄受元明者若義當即是阿鼻
地獄如大產遮片乾子往說
又明義當乃至一切出家人若道一

道法本作還

法本無打二字

打法本作持

種田法本作就由

益下法本有多字

少法本作小○血同
作西

能下法本有得字○
佛下同有身字

法本無得罪二字○
輕同作經○同無若
字

出家人通俗若打一人出家人
 若殺一切出家人亦如是類以可知
 何以故明如上第二大段內說文
 一切出家人無一切諸責十四種
 俱明義同一種相似毛別故以此文
 驗所以得知又如大集身處分後說
 與難阿舍同文責打一行一切破戒
 比丘得罪過於出一万倍佛身五
 何說打一切打或比丘行以故明不
 就一切悲殺兩種田厚薄說三不就
 一切能殺心淺深說唯就一切損益
 少說明出佛身五莫問多少皆盡
 吾不能減一切佛法壽盡所以得罪
 得罪輕明若打一切出家人不盡皆
 盡吾或一切佛法壽盡所以得罪

賊法本作則

說法本作稅

重又廣明一切損益多少所由說如
 下兩段何以故一切女四段壽一切
 吾真吾心別真別心佛法內說在
 除一切行法行王乃至一切行法行
 官府壽得打一切延延俗人得打一
 切作賊俗人壽不在其限又已下引
 往證佛滅度一千五百後一切通俗
 寺皆盡吾不得打一切出家人所由
 義已上人語引往說
以下皆是往文說善男子未來世中
 一切俗信不信罪福說真象續或
 稅畜生穀米乃至一豪之物或驅使
 三寶奴婢或乘三寶牛馬一切俗
 人不得趨打三寶奴婢畜生乃至不
 得受三寶奴婢禮拜皆得殊各何
 現駭策趨打告諸俗信若有禁防

輪法本作輪

相法本作損○同無
同一字

割運輸稅之處換莫令比丘輪稅
若稅出家人者得罪无量已下人註
如像法史起往說與多起往義同是
可相持戒破或兩兩種福田內亦就
一切福田厚薄說如上說文當何况
打一切持戒比丘是

又明若就一切根搭說一昔明准除
一切第一階佛法內一切利根真聖
真善正身成就凡夫一切乘根搭善
產莫問凡聖一種相似焉往持一切
佛法寺故俱得雖一切破戒比丘還
俗俱得打一切通俗乃至三得 後
一切精通人如大般涅槃經度三
三昧往弟說二昔明一切第二階佛
法內一切利根真聖真善正身成就

度下法本無三字
第法本作等
聖下法本無眞字

一聖法本作一種

法本無大一字

固法本作困

薄法本作落

法本無藏字○分下
同更有分字

就凡夫一切三乘根搭衆生莫問凡
聖一聖相似准得雖一切破戒 比
丘還俗皆善善不得打一切 出家
人亦不得然一切精通人如大般涅
槃經十号內及大大般涅槃四種近
因初下近因律文等說三昔明二
切第三階佛法內一切利根空見百
見衆生一向不得雖一切出家人還
俗亦不得打一切出家人亦不得然
一切出家人准除得用五種輕 治
罰一切出家人法治罰一切出家人或
驅出寺或驅出聚落或驅出國寺
不在其限准得打一切俗人不在
其限如大集月藏分後與難陀舍往同
大產退尼乳子往大方廣十輪 往等

要記引佛滅度乃至
三昧經等說(四行)

內要記作門

說又准有上下兩子取於一切三階佛法矣
又義與應院論卷第一大段內亦如是律取有
者明若就佛在世及佛滅度後
一切時節分應說一者明文當佛
滅度後文當未廿時義當佛滅度後
又義當佛滅度後一千二前揭得用
一切第一第二兩階佛法內一切重法
得一切通俗法法得一切通俗如大般
涅槃經淨度三昧經等說二者明文當
義當佛滅度一千二已後一切第一第
二兩階佛法內一切重法得一切通俗
法皆悉音不得用之一句在得用一
切三階佛法內一切法法得一切通俗法
法得一切通俗如大集月藏分經與難
阿含經同大羅遮片乳子經大方廣十

要記引佛滅度乃至
一切通俗(五行)

要記無所字

要記無兩階二字
內同作門

聖法本作耶○迦同
作加

義法本作善

皆法本作階

法本無內一切三字
○皆同作空○硯同
作破

有下二字法本作見
耶

切下法本有三字

輪往尋說何故明文當佛滅度後一
千二已前由多有一切聖人一切利根
真善心見成就在在不滅故可以揭
得用一切第一第二兩階佛法內一切
重法得一切通俗法法得一切通俗
如寂勝定經與多部經義同摩訶摩
聖法迦葉經等說文當義當佛滅度
一千二已後一切聖人一切利根真義
心見成就在在皆悉音滅盡如上第一
大段內說自有一切第一皆佛法內一切
內一切利根皆自見有見破戒不硯見
心見心見成就在在一切三乘根機衆
生在多少令應在根機止上一種相似
亦名能有一切利根空見有見一乘見
成就顛倒行壞輪壞一切乘根機衆
生在多少令應如十方世界所有地上

所下法本有以字

法本无上本二字

法本卷尾有校了二字

一種相似所宜得用一切兼三階佛法
內一切輕法尋一切通俗法法尋一切
通俗如上兼一大段內所說八部住持
說

三階佛法卷第一上本

三階佛法

卷第二



一 聖語藏本

二 頁

三階佛法卷第二

第六段明一切行法行王若能得保一切第
三階佛法內一切關戰法其他關乃至致唯
得一切軍大輕罪現在少分撤悔其得畢竟
永滅盡不受一切三途惡果報此語翻
經云王言大師成就如是十種功德而得名為
行法行王者若其國內有洋賊王具四種兵
與法行王關詳國土及外國王來相投棄故
與大關集四鄰兵一切跪前行法行王何被
彼而共關戰卷言大王行法行王當應思惟
於三特中出三方便入陣關戰何等三特
謂初八時中八時後八時大王當知初八時
作方便者行法行王若見逆王今時復作
三種思惟一者思惟此逆王所有兵馬為
與我等為當勝我若與我等共關戰者俱損

元益若其勝我彼活我死如是合已應竟
王所有親友及善知識當分和解此闢諍
二者行法行王見彼逆王與已平等及勝已
力者心自思惟不應與戰當與其初不戰聞
諍三者若見逆王多有士衆眷屬明黨象
馬車步四兵刀勝行法行王士衆雖少能以
方便現大勇健難敵之相令彼逆王生驚畏
心以滅闢諍如是名為於初時中思惟三種
方便之用大王當知若以親友與物驚怖如
此三事不能滅彼闢諍事者行法行王今特
復起三種思惟入陣闢戰何等三種者思
惟此逆逆王元益悲自斃衆生餘人斃者二
不遮護我今不令如此相斃此是初心護諸
衆生二者思惟當以方便降伏逆王馬兵
衆不與闢戰三者思惟當以方便活繫縛取

二法隆寺本

十二頁

(但、此中二頁は聖語藏本と重複す)

一府師卷第二

第六段明一切行法行王若能得依一切第

三卷法用一切關戰法若他關乃受放准

得一切家大相罪現在少分職協即得早竟

求諸善不受一切三監惡果兼受當

又王若大師成就如是十種功德而得名為

行法行王者若其國內有違賊去具四種兵

與法行王關師團並在外國王未相和意故

與夫關軍四部並一切規前行法行王何故

彼而英關戰若言大王行法行王當應思惟

控三時中出三方便入轉關戰行等三時

詔初入時中入時後入時大王當知初故入

時後入時者所行法行王若見違至令務後作

三種思惟一者思惟此違王所有兵馬否

與我善為當勝我若與我善共關戰者便換

元益若其勝我彼活我死如是念已應自達

相下聖本作授

丘聖本作兵

王所有親吏及長知識當令相辭破此國諒
二者行法所王見彼遂王與已平等及勝已
勿若心自思推不應與戰當其物未戰國
許三者若見遂遂多有士氣若屬明堂家
馬車安四兵力勝行法行王士氣壯大能以
方便現大勇健難敵之相合彼遂王生驚畏
心以勝國諒也名為於功特中思惟三種
方便之用本主當知若以親與物驚怖如
此三事本能破敵開諒事者行法行王今特
復赴三種思惟入陣開戰何等三種一者思
惟此道遂王无怠息自欺衆生憐人教者只
下是誰我今不令如此相敵此是初心誰諸
衆主不者思惟當以方便降伏遂王士馬兵
衆不與開戰三者思惟當以方便活擊傳取
不作敵害生此三種若慈心已然後位嚴四
兵氣分布三馬弓說方令開選兵衆分作三

背聖本作皆

品在上品中有上中下以上品中下勇猛者
列在托前衣列第二中下健者次列上品最
捷兵馬份在兩箱令善安穩不生畏心行法
行王家在軍中其策上品上品象馬車安穩
衆衆便如是入關何以故有五種事能令大
軍竟進不退行等為五一者慈憫二者畏
臣三者取王三者取王意四者令衆背後无
畏五者令合報國其具如內如分不生退轉
能勇戰開大王當知行法行王輕是方便大
陣開戰今特難復敵言衆衆而彼王得輕游
少罪攻定安隨隨勝破付以故彼法行行王
為故入戰先生三種慈慈心故難作此惡得
罪輕彼非攻定受大王當知彼法行王為令
衆生為護汝門護汝門法為護妻子族姓知
識能捨自身及資生物作如是業用此事故
彼法行王得无量大王當知若為護國臣法

人民與兵鬪戰波時國王應當先發如三
心勅令至特一依王教如是闔者有福无罪
如大蓮遮尼子誑說又明正下猶是上第四
段義未盡由父廣故所取迴之在後又已
下二名明一切利根空見有見衆生一切
最大正見智慧義一切家大邪見愚癡義
當於末世特當佛滅度後元當義當一切
正法行時又當在當有一切三種顛倒衆
生特義當佛滅度後一千年已後或一千
五百年已後如上第二大段內說又當義當
教一切行法行王托國內家家推求有大知
惠常行正法誑如實語諸汝門等如大蓮遮
尼子誑說又又當義當高在純偏為一切破
我此正作一切奇金特一向不為一切持我
此正作一切奇金特一向不為一切持我
教又當一切佛皆善善不能得度得一切

衆主特義當佛滅度後一千年已後或一千
五百年已後知大方廣十輪經說如上第二
大段內說又復依餘經說又當義當一切利
根空見有見衆生由偏崇一切多聞智慧故
一者明能得增長一切福忍皆善善善特
以後於前說止是善於忍說二者明能滅
一切四辛善根皆善善善特准一切聖人
在其限又當法滅盡品特又當強勤菩薩
善義當一切善善皆善善不能度得一切衆
生特又當義當佛滅度後一千年已後特矣
集月藏分經說與雜阿含經同如上第二大
段內說又當遠一切多聞持戒忍德具足比
五經可貴一切門徒弟子於一切如和僧衆
內五種輕治罰一切破戒比丘又當義當教
一切真善利利一切真善利相大臣一切真

此門一切真善學聖羅門一切真善居士持戒
 清淨有功德者供養恭敬聽受言教持聲聞
 群文佛法皆善善守護許聽受持守護大乘
 如聞信受任大乘者持戒多聞言辭清淨與
 如此人對相敬娛則少悅樂語問善論教受
 教悔等如大方廣十輪法說與上大產蓮尼
 乳子注說父當義當佛戒度後之當義當
 切正法不行時父當義當在有一切三種毀
 倒眾生時教一切行律行於因內家家推
 本有大智惠常行正律能知實語諸法門等
 一種相似光明一切道俗莫問貴賤一種相
 似父當義當若能得其一則第三階佛法相
 當終身能得教一切善真善正新頭我若
 深衣我若善智深智莫問一切善惡持戒成
 或一切正善邪善一切利根鈍根一切有知
 解凡知解皆善善敬作三人善引法說已下在
是正文說

是真法門能行正道利益眾生是福田者能
 知正法是如法語者三人說皆善善共誦語
 皆善善禮足皆善善供養皆善善守護乃至
 終身常能得不作一切十惡一切六種一
 切河等地獄惡等者莫問一切善惡持戒成
 或一切邪善正善一切利根鈍根一切有知
 解凡知解莫問斷一切惡論一切善識悔一
 切罪善少次皆善善名有大智惠當行正法
 能如實語諸法門等皆善善名行法行正法
 志善多聞持戒五德具足此正皆善善名真
 善利利皆善善名真善輔相大臣皆善善
 名真善法門皆善善名真善法羅門皆善善
 真善居士皆善善名持戒清淨有功德者皆
 志善名任大乘者皆善善名持戒多聞言辭
 清淨皆善善名與如此人對相敬娛則心
 悅樂諸門義論教受教悔善所以文二者明

一切佛弟子一切出家人此正正正皆志
已上人語引注善名法下在是處是真法門能行正道利益
眾生是福田者能知正法是如法語者已下法
如大菩薩應是乳子已下法說二者明之當若
有禪士難復持或不能昇是禪法不同未
得三昧是人托禪若坐若行初夜得應得與
禪法相應而往則能淨斯九量業報能令
德那由他百千眾生悉得淨信成就菩提種
種善根福德之聚況是持戒得真法三昧等
者如大集月藏分經說樂難向舍任同三者
相先當道一切修持僧勸等無一切出家人
你和上何開梨乃至造令學習誦等四者明
文當若復有人不成就破離樹木又或名為
依止第一義僧乃至淨信以此文驗所以得
知如大方廣十輪法說又明一切道俗莫問
貴賤一種相似又當義當若不能得與一切

上下聖本作下人

第三階佛日相當不能得終身常敬一切善
真善正利頭或名若深衣或名若深衣僧
莫問一切善惡持戒破戒正善邪善利根能
根存知解無知解皆善善敬作已上人語非法
是真法門能行正道利益眾生是福田者能
知正法是如法語者已上人語不能得皆善善
滿語不能得皆善善供養不能得皆善善
守護乃至不能得終身常新一切十惡一切
世六種一切阿鼻地獄惡等而而常一阿羅
漢佛法內一切七十種等所談一切最上上
得好得樂別真別正佛法淨眾生新惡終善
辦行等一切上下一切凡聖一切善惡一切
一切大乘小乘一切世間出世間一切利根
能根一切有知解無知解一切邪心空有一
切邪心多破女欲一切邪心自利利他等者

莫問一切長惡持戒破戒一切善耶善一
切利根能根一切有知解元知解莫問新
一切惡備一切善備悔一切罪等多少在法一
切惡人一切利根真善正見因就凡夫不在
其邊也外外一切利根宜見有見衆性一者
明白返上有大智惠常行正法能知實悔諸
法門等時善善名聞覺元智惠常行耶法
常能年語諸汝門善如下此段說二者明白返
上行法行王皆善善名聞悔罪主如下此段
說三者明白返上夕聞持戒五德具足此也
皆善善名惠破戒此也如下此段說四者明
正返上真善利真善輔相大臣真善政
門真善學罪門真善居士持戒清淨有切
德教住大乘者持戒多聞言解清辨與此
人對相教娛則心悅樂語問義論張受教誨
善皆善善名義當是權施罪益如下此段

輔聖本作辨

夫當造惡行此宜實有過罪在持白承一切
勢力或持長富剛物等力或持夕聞或持辨
辨或持弟子如是等力次下性文說天當利
利權施諸五者明皆善善名又當輔相研化
罪也於善根不肯信向緇曲愚癡自稱多知
皆善高傍不畏後世惡業果能離善知識乃
至趨向阿鼻地獄六者明善善名天當於未
來世利權施罪罪人安罪門研化罪善根
微少无有信心欺詐如典是諸惡癡現智
惠相不隨善知識語實是愚癡現為知惠心
常疑悔不畏後世而无禁戒作諸放生乃至
邪見欺誑於他於諸世間當行誹謗語利利
誹謗罪孽罪門研化罪壞法法於我法中
而得出家常毀破戒作諸惡行而利研化罪
門善一供養七者明一切利根宜見有見衆
生莫問一切道俗遺賤皆善善名研化罪皆

詔聖本作誦

壞上聖本作罪

切下聖本有破字

卷善名父當佛度度信天當義當不信一切
聖人持義比且皆善善善特天當義當不
信一切如藍聚落外一切學十二頭陀持
戒比且皆善善善特天當義當不信一切如
藍聚落外一切中欲知是省事持義比且皆善
善善特天當義當一向准此偏信一切破
戒比且一向准此偏說一切或好或不好准
此偏供養一切破戒比且一向准此偏守戒
一切破戒比且一向准此偏為一切破戒比
且作一切守舍善特天當義當一向不信一
切聖人持義比且及一切凡夫由一切持戒
比且一向准說一切人人持戒比且及一切
凡夫由一切持戒比且惡向不送卷一切
聖人持義比且及一切凡夫由一切持戒比
且一向不守戒一切聖人持戒比且及一
切凡夫由一切持戒比且一向不為一切聖人

三興聖寺本

七十八頁

(但、此中十三頁は法隆寺本と重複す)

圓通山興聖寺

此後燕巖山兵分三士馬
令前送兵分作三品於上品中有上
中下以上品中下第極者列在於前次
列第二中品健者次列上品最健兵
分在兩前合讓步受不主畏心行

王慶在軍中與家上品上品象馬
步極受受俱如是入關何以故有五種
事能令大軍竟進不退何也
者轉愧王二者畏王三者

王意四者令與并後元男
款國王恩如子如分不生

戰關大王當如行法行王設是方便
入陣關第令時難獲效言與生而彼
王得輕敵少罪定受悔悔能滅何以
故設法行行王為欲入戰先三種慈非

心故難作此惡得罪輕故非艾之受大
王當知彼法行王為令衆生為護少月
護沙門法為護妻子族姓知識

自身及資生物作如是業因此事

彼法行王得元量大王當知若為護

國養活人民與兵聞戰彼時國王應

當先發如上三心勅令王將一依王教如

是聞者有福元罪如大產邊及子子任

說又明已下猶是上第四段義未盡由

又廣故所以迴之在後又已下念名明一

切利根空見有見衆生一切寂大

智惠義一切寂大亦見愚癡

當於末世特義當佛滅度後父當若

當一切正法行時父當唯當有一切

三種顛倒衆生時義當佛滅度後一

千年已後教一千五百年已後如上

第二大段曰說父當義當教一切行

法行王於國內處之推求有大智惠

當行正法能如實語諸沙門等如大

產邊及乳子經說又父當義

向唯幾偏為一切破我比丘作一切事

舍將一向不為一切持戒比丘作一切

寺舍等特在順唯寫唯打唯教父當

當一切佛皆悉著不能得度得一切

與主特義當佛滅度後一千五百已後

說如上第二大段曰說又氣依餘經說

父當一切利根空見有見衆生由偏

學一切多聞智惠故一若明一

增長一切種之惡皆悉著盡也

前說亦名似善驗惡說二者明能滅

要記引文當乃至經
說(五行)
要記無當字○度下
同无得字

要記引文當乃至經
同(五行)○品同作
之

一切四乘善根皆志善盡特在除一
切聖人一切利根真善正見成凡夫
返上即是不在其限又當法說盡品時
又當稱勅善善等義當一切善善皆志
善不能度得一切眾生特又當義當佛
戒度一千年已後特如大集月說
說與雜阿含經同如上第二大人
當造一切多聞持戒五德具足比丘
可貴一切門造弟子於一切初僧受日五種
鞋治罰一切改或比丘又當義當教一切
真善利利一切真善輔相大臣一切真
善沙門一切真善婆羅門一切真善
居士持戒清淨有功德者養恭敬聽
受言教於聲聞辟支佛法皆志善守
護師聽受持守護大衆如聞

大衆者持戒多聞言味清辯與如
人對相敬候則心悅樂諮問義論敬受
教悔等如大方廣十輪經說與上大
庭反乳子經說又當義當佛滅度後
又當義當一切正法不行時又當義
當在有一切三種與到眾生特教一切
行法行王於國內度推求有大智
惠常行正法能如實語沙門等
相似又明一切道俗莫問貴賤一
似又當義當若能得與一切第三
階佛法相當終身能得敬一切普真
善正利頭或名者深衣或名者製法
僧莫問一切善惡持戒破戒一切正善
取善一切利根能根一切有知解元知
解皆善善敬也
已上人語并經說已
下是經文說

是真沙門能行正道利益衆生是
田若能知正法是知法語者
皆志善共濡語皆志善禮足皆志善
供養皆志善守護乃至終身常能得
不任一切十惡一切於六種一切阿鼻
地獄惡毒者莫問一切吾惡持戒
破戒一切亦善正善一切利根能根
一切有知解無知解莫問斷一切惡
備一切善懺悔一切罪善少皆志善
名有大智惠常行正法能如寶
沙門等皆志善皆名行法行王皆志善
名多勤持戒五德具足比丘皆志善
名真善刹利皆志善名真善轉相
大臣皆志善名真善沙門皆志善
善婆羅門皆志善名真善居士皆志善

善名持戒清淨有功德者皆志善
住大衆者皆志善善名持戒多門言辭
清辯皆志善名與此人對相
則則心悅樂語門義論敬受教悔等
何从故一者名明一切佛弟子一切
出家人比丘比丘尼皆志善名
七上人語
引經說矣
是眞沙門能行正道利益
七上下人
身生是福曰者能知正法是如法語
說引經說
者如大薩遮及乳子經說
二者明父當若有禪士難沒持戒
不能具足禪法不同未得三昧
於禪若生若行初夜得夜得與禪空
相應而住則能除新元量業能令
多憶那由他百千身生志得歸信以
就善提種之善根福德之聚况具持

惑得真法三昧善者如大集月藏
分註說與雜阿含經同三者明父當
遣一切惡業僧勸事與一切出家人
作和上向剎梨乃至造令學

誦等四者明父當若後有人不防身

收羅提木又說名為依止第一義僧

乃至淨僧以此又驗所以得知如大

方廣十輪經說又明一切近信莫問

貴賤一種相似又當義當若不能得與

一切第三階佛法相當不能得終身

常教一切善真善正剃頭或名者深

衣或名者裝裝僧莫問一切善惡

悉破惑心善耶善利根此根有知常

知解皆善善敬作已上人語引經說是真

沙門能行正道利益發生是福田者

能知正法是如法語者已下人語不能

得皆善善共濡語不能得皆善善信

終不能得皆善善守設乃至不能得

終身常斷一切十惡一切六種一切

一切河臭地獄惡善而一帝一阿主

純偏學分別一切世間內一

第一第二兩階佛法內一切七十種

等所說一切寂上得行得樂別

真別正佛法僧身主斬惡隨善解行

等一切上下一切九聖一切善惡一切

一切大業小業一切世間出世間一切

利根能根一切有知解元知解一

切邪正空有一切邪正多欲少欲

邪正自利他善者莫問一切善善

持戒破戒一切正善邪善一切利

根能根一切有知解元知解莫問
斬一切惡備一切善懺悔一切罪善
多少唯除一切聖人一切利根真善
心見或說凡夫不在其限之外一
切利根空見有見與生一者明正
返上有大智惠常行正法能如
諸沙門等皆志善名聞能元智惠常
行邪法常能妄語諸沙門等如下
此段說二者明正返上行法行王皆
志善名聞能如王如下此段說三者
明正返上多聞持戒五德具足此五
皆志善名聞能破戒比丘如下此段
此說四者明正返上真善剎利真
善輔相大臣真善沙門真善
門真善居士持戒清淨有切德

者任大業者持戒多聞言辭清辯
與如此人對相稱讚則心悅樂語
問義論敬受教誨等皆志善名義
當是稱他輩比丘如下此段說父當
造惡行比丘實有過罪而持白衣
一切勢力或恃臣富財物等力或恃
多聞或恃辯辭或恃弟子如是等
次下經又說父當剎利稱他輩五者
明皆志善名文當輔相稱他輩少於
善根不肯信向諸曲惡處自稱多知
皆生慚悔不畏後世惡業果報離
善知識乃至趣向阿鼻地獄六者
明志善名文當於未來世剎利稱
他輩乃至婆羅門稱他輩善根淺
少元有信心欺詐誦曲是諸惡處

智慧相不隨善知識語實是愚癡現
為智慧心常寂悔不畏後世而元禁
戒作者致去乃至邪見欺誑於諸世
間常行誹謗誥刺利解施羅孽羅
門解施羅壞亂佛法於我法中而得
出家常毀破戒作者惡行而利利要
雖阿耨心供養七者明一切利
根空見有見無主莫問一切道中
貴賤皆志善名解施羅皆志善名
文當佛戒度後文當義當不信一切
聖人持戒比丘皆志善盡時文當
義當不信一切伽藍聚落外一切
學十二頭陀持比丘皆志善盡時
文當義當不信一切伽藍聚落
內一切少欲知足省事持戒比丘

志善盡時文當義當一切唯能偏
信一切破戒比丘一向唯能偏說一
切破戒比丘好一向唯能偏供養一
切破戒比丘一向唯能偏守護一切破
戒比丘一向唯能偏為一切破戒比
丘正一切善舍善時文當義當一
向不信一切聖人持戒比丘及一切
比丘日一切持戒比丘一向唯能
切人人持戒比丘及一切凡夫日一
切持戒比丘惡一切向不供養一切
聖人持戒比丘及一切凡夫日一切
持戒比丘一向不守護一切聖人得
戒比丘及一切凡夫日一切持戒比
丘一向不為一切聖人持戒比丘及
一切凡夫日一切持戒比丘正一切守

俱無等寺二字

三下俱有念字

偏下俱無信字

舍寺寺時唯願唯寫唯打唯敘又
三卷往從卷初發首明文當剎利
旃陀羅婆羅門旃陀羅沙門旃陀羅大
臣旃陀羅由一向唯此偏信一切破惑
比丘等一向不信一切持戒比丘等故
文當先備善根令志消滅乃至墮於阿
鼻地獄等如大方廣十輪經說又明
何以故明一切第三階佛法因一切利
根空見有見無生乃至未得法忍心
未真問一切善惡持戒破惑皆善
善名破惑莫問一切利根能根有
知解元知解歸一切三寶度一切無
生等一切惡斷一切善解行等多少
但使常一向唯此偏學一切世間因
一切第三階佛法因一切世間破善一

諸下俱作沙

輔聖本作轉

俱無淨字

切寂下、得惡得善善真善正佛法信
與生新惡斷善解行等常正常不歸
常不誅誇一切正法常不毀譽一切
賢聖乃至一切凡夫等常一向唯
此真元頓佛法之名常一向唯此偏
學一切生有與生佛法皆善善名
有大智慧常行正法能如實語諸沙
門等皆善善名行法行玉行善善
名多聞持戒五德具足比丘皆善善
名真善剎利皆善善名真善輔相大
臣皆善善名真善沙門皆善善名真
善婆羅門皆善善名真善居士皆善
善名持戒清淨有口德者皆善善名
住大乘者皆善善名持戒多聞言詳
清淨辯衍善善名與如此人對相欽歆

和俱作如

則心悅樂證問義論敬受教誨等所
由義和上第四段由文廣故迴之在後
法內說如下廿四段法內說一皆明得
頓滅從元始世界乃至未得法忍心
未一切世間日一切三階佛法內一
切上下而生一切亦空見有見一切
邪三毒一切邪我見一切邪自高
輕他一切邪自是非他等皆志皆得
滅盡不起故如下廿三段法內說二
明得頓滅從元始世界乃至未得法
忍已未一切世間日一切三階佛法
內一切謗佛誹法通凡及聖皆志
皆得滅盡不起故如此段上下廿三
段上下亦三段法內說三者明得頓
滅從元始世界乃至未得法忍已未

二下俱有者字

佛下俱無謗字

俱無上下廿三段五
字

一切十惡一切四重一切五逆一切六
種一切阿鼻地獄惡等皆皆得滅
盡不起故何故明一切十惡等皆
志善不得起一分一毫義所由若在一
切十惡等莫問多少即能令上下一
切廿四段等日一切應滅惡等皆善
起不滅故一切應起善等皆善滅不
起故如大集月藏分經與雜阿含經同
大薩遮尼乳子經大方廣十輪經佛
藏經等說四者明頓滅從元始世
皆乃至未得法忍已未一切利根真
聖一切一乘菩薩一切聲聞一切緣
覺一切利根正見成就凡夫一切
一乘根機善道一切三乘根機善
道一切聲聞根機與生一切緣覺

明下俱有得字

一乘上俱有佛一切
三字

法佛俱作佛法

普下俱有得字

唯下俱有純字

根機與生一切別真別正法佛信
與生新惡隨善解行善日一切利
根空見有見與生一切別邪善佛
法信與生新惡隨善行善皆善善
盡不赴故知為一切利根空見
有見邪見或就顛倒九種人所說
經壽說五者因得頓滅從元始世來
乃至未得法忍已來一切不信
佛法一切惡天龍八部一切惡鬼
神一切惡夜叉羅刹一切惡魔常
一向唯純偏滅一切別真別正三寶
常一向唯純偏滅一切別真別正國土
生從正次邪乃至成一切三寶善
志皆得滅盡不生故如大集經大集

月聖本作因

得聖本作行

始以下俱別行

內下俱有一切二字

俱無惡字○俯下俱
有解行二字

行下俱無善解行三
字

月藏分經與報向舍經同灌頂經難
類神咒經壽說六者明得頓不滅
從元始世來乃至未得法忍已來一
切惡內邪善三寶一切邪善與生一切
邪善新惡行一切邪善隨一切正善
三寶一切正善與生一切正善新惡行
一切正善備善解行善解行善日一
切元名相法及不淨觀五種惡境界
皆善善得不滅故何以故明一切元名
相法內一切惡一切邪善佛法皆善善
不得赴唯有一切真好一切正善佛法
皆善善得赴不滅故如迦葉經佛
藏經大方廣佛花嚴經大般涅槃經壽
說七者明得頓與已從元始世來乃
至未得法忍已來一切常是已百緣

與聖本作學

忍下聖本無已字

亦如是以下俱別行

得聖本作行

皆聖本作智

一切好僧寶等內之如是何以故明
一切菩薩行日一切惡一切邪善
佛法皆善普不得起唯有一切真
好一切正善佛法皆善普得起不
滅故十者明得須不滅從元始世
東乃至未得法忍已未教一切惡
僧寶一切惡眾生一切邪善僧寶
一切邪善眾生皆善普作一切當
未佛皆善普得不滅故於一切好
僧寶等亦如是何以故明一切當
未佛日一切惡一切邪善佛法皆
善普不得起唯有一切真好一切正
善佛法皆善普得起不滅故又當
義當如法華經不輕菩薩品等說十
一者明得須不滅從元始世界乃至

實下俱無一切惡僧
寶五字

亦以下俱別行

相好俱作想佛

未得法忍已未教一切惡僧寶一
切惡僧寶一切惡眾生一切邪善
僧寶一切邪善眾生皆善普作是
一切真佛想佛皆善普得不滅故於
一切好僧寶等亦如是何以故明一
切佛相好日一切惡一切邪善佛法
皆善普不得起唯有一切真好一切
正善佛法皆善普得起不滅故又當
義當如大方廣十輪經大方廣佛華
嚴經少分等說十二者明得須不滅
從元始世界乃至未得法忍已未
教一切惡僧寶一切惡眾生一切邪
善僧寶一切邪善眾生皆善普作一
切六波羅蜜一切十二頭陀等具足
決定得一切善提提提果想皆善普

波俱作滅

法本無以字○佛俱
作解

知俱作如

得不破故於一切好僧寶之如是向
以故明翻一切惡解行生一切善佛
行內一切惡一切非善佛法何志善
不得起唯有一切真好一切正善佛
法皆善善得起不滅故上下餘破
等之如是類以可知文當義當知
大方廣十輪經寶雲經少分壽說十
三者明得領不滅從元始世來乃至
未得法忍已未一切惡僧寶一切惡
身生一切慳貪內一切餘殘不盡極
一切犯或內一切餘殘不盡或一切瞋
恚內一切餘殘不盡忍辱一切憍恣內
一切餘殘不盡禪定一切愚癡內一切
餘殘不盡智慧皆善善得不滅故乃
至一切惡內一切餘殘不盡善之如是

檀下俱有內字

持上聖本無善字

耶聖本作邪

殘上俱无餘字

類以可知如大方廣十輪經文當在
破段惡內說義當餘一切惡亦如是
類以可知十四者明得領不滅從元
始世來乃至未得法忍已未一切邪
善僧寶一切邪善身生一切邪善極
一切餘殘不盡正善極一切邪善持戒
內一切餘殘不盡正善持戒一切邪善
忍辱內一切餘殘不盡正善忍辱一
切邪善精進內一切餘殘不盡正
善精進一切邪善禪定內一切餘殘
不盡正善禪定一切邪善智慧內一
切餘殘不盡正善智慧皆善善得不
滅故乃至餘一切邪善解行壽壽
亦如是類以可知此段以上一切惡
行內既有一切餘殘不盡善行在驗

所下俱有以字

俱无善字

至字俱作土〇俱无名字

成上讀俱作檀〇俱无是字

俱无一字〇俱无内字〇十五以下俱别行

之所得知一切邪善解行四亦一切
 餘殘不盡正善解行在 何以故明佛
 已後一切聖人一切利根真善正見成就
 九丈一切善正持戒或解一切三寶度一切
 周一切善正持戒或解一切三寶度一切
 亦主新一切惡滿一切善解行等一切
 皆主善正一切利根真善正見成就
 是正一切邪善解行等一切邪善解行
 邪善解行等一切邪善解行等一切
 少與若破或不破是正見成就七丈邪善一
 正有奇如一切修實內真信實實有一種種
 似多少久遠有與無上至一經之外名明會一
 以行根定是有見自正定問一切善正持戒或
 或解一切三寶等多少能名行解解是是是
 便故有地邪正正奇如一切真元演說一切
 法已價實實志善做盡者有一切黑白
 細細白錫飯錫王後寶在一種種似多少
 少以流十方世界有地土等一切種種
 在行今行一切利根定是有見自正定一
 一切邪善解行等一切邪善解行等一切
 盡正善解行等一切利根真善正見成就
 既日 餘不兼一大段四 應說 十五
 若明得頓不滅從元始世來乃至
 未得法忍已來一切利頭或名淫
 衣或名者裝裝信皆志善得不流

普聖本作苦(力)

故大方廣十輪經說十六者明得
 頓不滅從元始世來乃至未得法忍
 已來一切利根空見有見衆
 生一切剎邪善佛法信受生新
 惡備善解行等日一切利根真聖
 一切一乘善產一切三乘善產聲聞
 一切緣學一切利根正見成九丈
 一切一乘根株善產一切三乘根株
 善產一切聲聞根株與主一切緣覺
 根與生一切真剎正佛法信受生
 新惡備善解行等皆志善得不滅
 故十七者明得頓不滅從元始世
 來乃至未得法忍已來常一向在
 此備求一切寂上上剎好名聞一
 切寂上上剎好利養衣服飲食

別下俱有好字○徒
聖本作從

俱无一切三乘菩薩
六字

房舍卧具等一切寂上、別好
寺舍一切寂上、別好僧正及一
切寂上、別好法主等一切寂上
、別好師僧一切寂上、別好弟
子一切寂上、別造矣一切寂上
、別好極越等八種一切寂大耶
好道信內一切利根真聖一切
佛一切一乘善產一切三乘善產
一切三乘善產一切聲聞一切緣覺
一切利根正見成就凡夫一切一乘
根機善產一切三乘根機善產一切
聲聞根機衆生一切緣覺根機衆
生一切別真別正佛法信衆正新
惡備善解行等皆志音得不法故
如大般涅槃經等說又類易說又吉

自聖本作有
一上俱无法字○皆
俱作此

道上俱有惡字

善直煩惱諸結未有新者為利益
衆生故於國王等前及一切道信
等前自稱得聖處處多末一切名
聞利養等十八者因得頓不疑徒元
始世界乃至未得法忍已未一切教
文一切教母一切教阿羅漢一切教
和合信一切出佛身血一切教聖人
一切極聖人一切極聖人比丘尼一切
偷三寶財物一切大妄語乃至自稱得
聖等一切誅謗害法法一切教皆
賢聖一切十一種等一切寂大亦
道信內一切利根真聖一切佛一切
一乘善產一切聲聞一切緣覺一
切利根正見成就凡夫一切一乘
根機善產一切三乘根機善產一切

聲聞根機衆生一切緣覺根機衆生
一切別真別正佛法信衆生劫惡德
善解行等皆善普得不滅故如方
廣輪經大般涅槃經等說十九者
明得預不滅從元始世界乃至未
得法忍已來一切天一切人一切阿
脩羅一切畜生一切餓鬼一切地獄
等一切六道衆生因一切利根真聖
一切佛一切一乘善薩一切三乘善
薩善薩一切聲聞一切緣覺一切
利根正見成就凡夫一切一乘根機
善薩一切三乘根機善薩一切聲聞
根機衆生一切別真別正佛法信
衆生新惡備善解行等皆善普得
不滅故如大般涅槃經等說女者用

得預不滅從元始世界乃至未
得法忍已來一切天一切人一切阿
脩羅一切畜生一切餓鬼一切地獄
等一切六道衆生因一切利根真聖
一切佛一切一乘善薩一切三乘善
薩善薩一切聲聞一切緣覺一切
利根正見成就凡夫一切一乘根機
善薩一切三乘根機善薩一切聲聞
根機衆生一切別真別正佛法信
衆生新惡備善解行等皆善普得
不滅故如大般涅槃經等說女者用

說下俱死者字

俱無一切一乘菩薩
六字
薩下俱有一切聲聞
一切緣覺八字

切下俱有六字

男聖本作界○俱無
者字

根真聖一切佛一切一乘菩薩一
切三乘善產一切利根正見成就凡
夫一切一乘根機善產一切三乘
根機善產一切聲聞根機樂生
一切緣覺根機樂生一切天樂生一
切人樂生一切阿羅漢樂生一切畜
生樂生一切餓鬼樂生一切地獄樂
生肉一切父一切母一切兄弟一切
姊妹一切夫一切妻一切男一切女
乃至一切親眷等皆悉普得不
減故何以故明如像法決疑經與
多部經義同觀佛三昧經云等說
明一切三界樂生正元始世界已
來元有不佞家母兄弟姊妹夫妻
男女等皆以此文驗所以得知如

二者明得願不減從元始世界乃
至未得法忍已未一切信佛法一切
正善天龍八部一切正善鬼神一切
正善夜叉羅剎一切正善魔王及一
切魔王眷屬皆悉普用佛語常
一向在死偏守護一切寂下下別惡
三寶一切寂下下別惡國土一切
寂下下別惡生等皆悉普得不減故
如大集月藏分經與雜阿含經同傢
法決疑經與多部經義同等說何以
故一皆明由一切利根空見有見樂
生乃至未得法忍已未常不諱一切
惡內一切邪善內一切利根悉見供
不破一切破悉不破見正見成就九
種人常不諱一切好內一切正善因莫

俱無內字

內問一切善惡持戒破守志普名
 一切利根空見有見與生如上第一
 大段內釋二者明由但使守護一切
 寂下之別惡三寶一切寂下之別
 惡團主一切寂下之別惡與生何
 說一切寂上之別好三寶何說一
 切寂上上別好因主何說一切寂上
 之別好與生此既准經義推說
 說三者明由文當佛說度一十年
 已後一切利根真聖一切佛一切
 供一切一乘善產一切三乘善產
 一切聲聞一切利根真善正見成
 就凡夫一切一乘根機善產一切
 三乘根機善產一切聲聞根機
 衆生一切緣覺根機衆生一切別

佛下俱無一切佛三字

唯聖本作羅

偽聖本作偏

月下俱有藏字

階俱作限

真別正佛法僧衆生刺惡備善解
 行等皆志善滅盡唯有一切利根
 空見有衆生一切邪善佛法僧
 衆生新惡備善解行等在喻如一切
 金銀七寶踏石等一切真實皆善
 滅盡唯有一切偽寶以為一切
 元價寶在唯有一切赤白銅鐵白
 錫鉛錫等以為一切元價寶在一種
 相似如大集月分經說與難阿
 舍經同唯除一切法行王之名一切
 國王之名一切灌頂刹利王之名一
 切人王如上第一大段內說不定若
 能得依一切第三階佛法住持一切
 三寶住持一切國主利益一切衆生不
 在其階如上第一大段內說四者明

實下俱有一切最下
下別惡國土九字

由一切寂下。別惡三寶一切寂下
。別惡衆生不能得自治一切官府
等難難漫多故。如大集月藏分
經說與雜阿含經同。五者明由一切
世間與一切出世間一倍。返一切世
間法。惟有常一向。惟此偏自守護不
守護他。始得力。惟有常一向。惟此偏守
護一切上。一切好不守護一切下。一切惡
始得力。一切佛法。惟有莫問自他上下好
惡。皆志善守護。始得力。惟除一切聖
人一切利根。正見成就。凡夫一切一乘
根。善善不在其限。如上第一。大段
內所說。八部經。等說。如一切第一。階
佛法內。一切甚深。大乘經。一切利他
行。內一切通善行。內勝。經。等說。六者

始俱作好

敬法本作故

明由一切利根。空見有見衆生。從元始
世。已未常一向。惟此偏信。偏敬一切
寂上。別好三寶。等常一向。惟此偏
不信。偏壞一切寂下。別惡三寶。等
增長一切。那會。顯。寂。元。量。元。意。在。有
偏捨一切寂上。別好三寶。等。在。有
偏敬一切寂下。別惡三寶。等。始。能
得。得。得。一切。會。上。壞。下。一切。會。顯。寂。我
見。自。高。輕。他。自。是。非。他。等。不。起。故。如。大
般。涅。槃。經。說。文。顯。易。謙。文。當。就。一。切
赤。蠅。王。臣。喻。文。當。為。一。切。劫。當。偏
病。衆。生。說。義。當。即。是。為。一。切。利。根
空。見。有。見。衆。生。說。義。當。於。餘。一。切
偏。等。亦。如。是。類。以。可。知。乃。至。為。一。切
利。根。空。見。有。見。那。見。成。就。顯。倒。九。種

當俱作常

偏下俱有病字

寶下俱有一切最下

得下俱有不字

又俱作人○要記引
又於乃至衆生(十二
行)○要記無報字
要記無自字

初屬下要記有一切
大乘衆生六字

經要記作住

佛下俱有法字○要
記亦同

要記無一切二字○
俱無佛滅二字○要
記無一字

要記無如大集乃至
等說十八字

要記無一分二字

誦下俱有經字○要
記亦同

說下俱有經字

能盛聖本作於感

著聖本作善

安俱作苦

眞聖本作其

人所說經等說於三者明得頗不疑從
元始世身乃至未得法忍已來一切利
根眞聖一切若佛一切善善等一切
寂下已別眞別正出世間一切正善
果能壞力壽一分如後皆善善得法
故如大集月藏分經說與雜阿含經同
又於大集月藏分經內明如來一切其報
壞力壽皆善善分作三分文當一分自
集義當集一切第一階佛法義當處
供滅度後五百等之前一切聖人唯
經以後驗前說文當一分處一切生
禪聲聞義當集一切第二階佛義當
屬一切佛滅度後一千等之前一切
生禪衆主如大集月藏分經與雜阿
含經同也葉經等說文當一分集一

切破或讀經誦聲聞義當集一切
第三階佛法義當集佛滅度一千等
已後一切破或讀經誦經衆生如大集
月藏分經說與雜阿含同又非是一切
破或一切亦善能感得一切諸佛善
善等一切別眞別正出世間正善果
報壞力壽在有一切破或四一切餘
殘不盡或有一切非善四一切餘
殘不盡正善在有一切破或四一切
非善四一切利顯或名屠深衣或名
者袈裟僧在有一切世四段等一切
寂下下得惡得善善眞善正出世間
正善能感得一切諸佛善善等一切別
眞別正出世間正善果報壞力壽何
以故一者明喻如一切正身常一向

者俱作有

畢竟永不得有一切邪方喻如一切
正屋等因帝一向畢竟永不得者一切
邪至等一切惡帝一向畢竟永
不得惡一切善亦如是一切邪善
帝一向畢竟永不得惡一切正善
如是類以可知如佛滅度後如佛滅
度五百年已後如佛滅度一千已後
一切聖人一切利根真善正見淺就
凡夫皆志普滅盡善者是已上經
一切現緣說二者明佛自為一切出家
人說戒於一切出家人因但使有一
人犯戒帝一向畢竟永不得一切
出家人說戒如律父等等說三者
明阿羅漢比丘寧受十惡國王致白
畢竟永不肯為十惡國王說禪中

緣下就俱作說

說上俱無等字

問俱作問

明下俱有得字

聖本無滅字○法下
俱有忍字

皆上俱作寺

復上俱有屬振巨國
四字

與下俱無新字

當下俱有俱字○法
本無持字

問義唯除得為十惡國王說一切舍
三寶法說一切新十惡法等不在
其限如指壹阿舍經等說廿四者明
頗不滅從元始世界乃至未得法已
未備治自他一切破像一切破經一切
破等等勝作一切新經新等皆志
普得不滅故如象法皮經經與多等
經義因通上及下說又唯除依法
振且因得作二百五十塔寺吳地因
復更得作五十塔寺如大集月藏分
經與新雜阿舍經因第九卷內說已
外唯得備治自他一切破象一切破
經一切破寺何以故明一切塔寺若
少不與經法想當若多不與經法
想當此是任持一切佛法故如像法

道下俱有俗字

此說經說與多部經義同大般涅槃
經說明出家人畜八不淨財畜二沙
鉢作非即知不畜八不淨財唯畜一
沙鉢者是又一切利根空見有見
衆生唯得共他一切道俗作功德勝
自作功德又復以已用他一切道
俗作功德勝他一切道同已作功德
如像法及說經與多部經義同文
顯易識大般涅槃經四種近目初下
近目內等說又明於上一切廿四經
等因第一第二第四第五四經无別
能治藥即下十段是第三第六畫
第廿三十九段正處與一切利根空
見有見衆生一切出世間根機藥病
相當正對治藥即如十九段內所

問聖本作門

病俱作癩

俱無生字

階俱作限

引經等說第廿四段非是當一切利
根空見有見衆生一切出世間根機
藥病相當正對治藥唯是一切取
大能根衆生兩種病羊信正對治
藥何以故

一者明文當于佛百千万億佛不能得
度得一切衆生特於一切利根空見
有見惡賊狗菩薩指上揚衆生六
師外道惡魔等內初明四天下
一切出家人皆善善唯學一切无名
相法坐禪皆善善不供養一切佛
舍利皆善善不禮拜一切佛塔乃
至一拜除一切在家人不在其階
如迦葉經第二卷同說後佛遣一切
出家人皆善善唯應學一切无名

耶俱作邪

增聖本作僧

說俱作記

典俱作曲

相法坐禪一切在家人內之類有少
分乃至少言語亦是耶見乃至誦經
誦經亦名淨說法何以故明由不能
與一切元名相法相應故如佛藏經
第一卷過半已後念法品未及念指
品內說
二者明義當千佛不能得度得一切
衆生時於一切利相空見有見指上
暢比丘有大勢力時唯敬指上暢一
切寂大惡四衆生作學一切菩薩行
作一切當來佛乃至不讀誦經典一
子如法華經不輕菩薩品及依餘部
經等說又指上暢多說一切有見
衆生內說多說一切有見衆生內說
多說一切利根衆生內說多說一切

俱無說字

脩下法本有四善二
字

何聖本作所

菩上俱有准狗隴三
字

斷俱作斯

俱無佛字

出家人內說多說歸一切三寶度
一切衆生新一切惡備一切善解
行等內說多說一切人見命見我
見說有何義
三者明文當義當一切諸佛菩薩
等不能得度得一切衆生時於一切利
根空見有見旃陀羅元慚愧僧以驢
菩薩內利根衆生發願乃至未得法
忍已未願不受身願不作種人主
願不作下賤人願不作新事人如大
方廣佛十輪經第四第五第六三卷
經內通上及下大集月藏分經
與雜阿含經同第十卷內等說所
以一切出家人家人內一切利根空
見有見衆生於第廿四經內一切普

諸下俱有佛字○薩
下法本無等字

生下聖本無時字○
時下俱無一切衆生
時五字

本俱作大

化俱作他

僧下俱無管理云々
十二字

功德唯得仰信見聞隨喜唯得同他
一切道位暫作少作等不在其限
四者明文當義當一切諸菩薩等
皆悉普不能得度得一切衆生時一
切衆生時一切衆生時如上次此既前
第三段內兩部經等說於一切利根
空見有見辨陀羅元漸愧僧以驢
狗驢菩薩等因一切者明唯遣癡羊
僧內寂利根解文冥然不解義者常
須以坐禪作根本自讀誦一切三乘法教
化讀誦一切三乘法自說一切三乘法教
他說一切三乘法此段以下癡羊僧內業
互試驗之所以得知二者明唯遣癡
羊僧管理僧事四者明唯遣癡羊僧與
僧管理僧事四者明唯遣癡羊僧與

覺俱作學

染聖本作深

明下俱無明字

出家人作和上阿闍梨五者明唯遣
癡羊僧覺讀經誦經等如大方廣十
輪經第二卷滅半已後第五卷滅半
已前說義當癡羊僧非是文當癡
羊僧又明何以故文當義當明一
切出家人內並有一切在家人內少
分一切利根空見有衆生由能得
廣學一切佛法由能得深分別一切
佛一者明能得滅一切三寶二者明
明能得滅一切國土三者明能得
救一切衆生乃至成一切三寶等
如大般涅槃經月燈經法華經不
輕菩薩品迦葉經摩訶摩耶經寂
妙勝定經與多部經義同佛藏經大方
廣十輪經大集月藏分經與雜

俱無雜阿含經四字

經下俱有內字

在上俱無有字

莫下俱作問○世下
俱無問字
唯上俱有不能得學
出世行七字

三下聖本有寶字

化法本作他○聖本
無作字

誦下俱無經字

阿含經因長阿含經雜阿含經等
說又顯易識所有明不信一切聖人
一切利根正見成就凡夫等或有
或致威國土多人語於佛經內打
前著後等威一切十二部經一切
正法正義等者皆善善是所以一切
出家人內兼有一切有在家人內少
分一切利根空見有見衆生乃至乘
得法忍已來莫問能得學出世間行
唯遺學子一切出世行一切羶羊僧返
上即是所以於一切利根空見有見
衆生出家人內唯得遺一口取大
鉢根衆生兩種羶羊僧說一切三
乘法勸化管理僧事與出家人作
和上阿闍梨讀經誦經等不在其限

多下聖本有者字

除聖本作深

階俱作限

又明一切在家人之得學第廿四段一
切普功德不在其限何以故一者明
一切在家人內一切根之空見有
見衆生多不能得廣學一切佛法
由不能得廣學一切佛法故即不能
得除分別一切佛法威一切佛法等故
二者明如迦葉經說明一切出家
人皆善善唯學子一切元相三昧生禪
皆善善不供養一切佛舍利皆善
善不禮拜一切佛塔乃至一殊唯除
一切在家人不在其階以此文驗所
以得知
又明於上第廿四段第六段說善第廿
三段十九段等正是與一切利根空
見有見衆生一切出世間根機藥病

相俱作根

得下俱有道字

又以下俱別行

帝俱作常

即下俱無定字

相當正對治藥因位判復有兩階
 一切利根宜見有見衆生若學第
 六既一切元名相法出世得道進
 若學餘十八既一切有法出世得道
 疾一切聖人一切利根正見成就凡
 夫若學第六既一切元名相法出世
 得疾若學餘十八既一切有法出世
 得道進何以故一者明如次股濕繫
 經第六卷過半已後說已上人談引經
或二下教是經
 文諸佛菩薩有二種說一者有性
 二者无性為衆生故說有法性為
 諸賢聖說无法性已下人談
引經又上經
 文因文當為衆生故說有法性者
 義當即是為一切凡夫故說有法性
 又於一切凡夫因當有一切兩種凡

夫一者明當有一切利根宜見有
 見衆生行壞於壞或見俱破顛
 到凡夫多少分齊學十方世中所
 有地立一種相似學一切空法不及
 學十八既等一切有法二者明命
 有一切利根或見俱不破或不破
 見正見成就凡夫多少分齊與机
 上立一種相似學一切空法勝學
 十八既等一切有法又一切利根耶見
 正見成就凡夫多少分齊如此卷上
 第一大既內及餘卷第一大既內廣
 說又一切利根耶見正見成就凡
 夫學一切空有法勝劣不定即定
 如此既內已下說者是又一切利根
 耶見正見成就凡夫學一切空有法

俱無常字

競下俱有與字

俱無一切拜三字

俱無行字○想聖本作相

雖勝劣不定常須而法並學之何
以故文當義常當佛威度五百
已後文當千佛不能得度得一切眾
生時文當義當一切利根宜見有
見眾生增上場眾主惡賊拘喜
薩惡魔九十六種道覺滅一切佛
時如迦葉往說文當明出家比丘喜
薩唯學一切元名相三昧坐禪法
華往不輕菩薩品說文當明出家
比丘菩薩唯學一切普禮拜一切
拜一切寂大恩回眾作學菩薩行
行想作當來佛相二者明如迦葉
往佛藏經等道上及下說文當佛
威度後文當千佛百千萬億佛不
能得度得一切眾生時文當回天下

唯上俱作下

上俱作下

俱無明字○法下三字聖本作咒禪勝

一切出家人文當佛道諸沙門法皆
應如是已上人誦引往說
已上唯是往文說賢聖不作是念
此是耶見所以者何一切諸見
皆從虛妄緣起舍利弗若作是
念此是正是是人耶見舍利
弗於聖法中校新一切諸見根本
悉新一切諸說言道如虛空中手元
觸閻諸沙門法皆應如是已上人誦
引往說義
當佛道一切出家人皆當普應學
一切元明名相法然祇勝學供養
禮教一切三寶等元量元邊又
亦不聽在眾一宿唯遺常在山林
閑靜如野獸死又若學坐禪在山
勝在聚落何以故明唯有一切山林
寂閑靜故如大方廣十輪經通上及

與下俱有共字

生下聖本有及字

用上俱作食○飲下
俱作食○財法本作
則

一下俱有切字

下說文當佛威度後天當一切諸
皆善普不能得度得一切衆生時
上偈前長行內供養守護一切持
戒元或三種皆此立及一切三業法
并不與一切利根空見有見衆
生莫問一切善惡持戒破戒皆善
普不得與任下偈頌內第一第二
兩句文當備禪億千劫不為諸佛
護第三一句文當言不隱正法正
頌上長行內一切三種此立一切
三業法皆善普供養守護亦不與
一切利根空見有見衆生一切食
用一切三寶飲食財物道儀共任
第四句文當諸佛速護念天若學教
一佛性佛性當來佛一切想佛一切

若聖本作者

切下俱有純眞二字
即下俱無得字
起下俱無臥字
初佛俱作切

真取像佛一切真經卷真經文一
切剃頭或名著深衣或名著袈裟
真僧等在聚落勝在山林閑靜何
以故一者明上一切三寶等於一切
聚落內最多故二者明一切利根
空見有見衆生從元始世界得聞佛
法乃至乃至未得法忍已未於一切
佛法內唯有上一段一切元名相法亦
名一切空元空相空唯有上一切三
寶十八段等一切有法唯此真此正
故三者明一切凡夫無一切佛法
唯有唯此偏學一切此正佛法者
即得從元始世界以來一切所作惡
業皆善普得畢竟永滅不起則
得從一佛國至一佛國乃至成佛如

頭法本作頓

法華經不輕菩薩品大集月藏分經
與雜阿含經同大方廣十輪經等說又
明於上一切十八段等正是與一切利
根空見有見眾生一切出世間根藥
病相當正對治藥一切有法內復有兩
階第三段對自身一切十思一切四重
一切五逆一切十六種一切阿鼻地
獄第十五段一切利頭或名者誅衣
或名者裝裳真僧又即以一切利頭
或名者誅衣或名者裝裳真僧驗
一切真經卷經又法驗一切真佛像
佛等一切兩段之索少有一切貪瞋
煩惱唯除常元一切耶錯常不起
一切誇佛誇佛通凡及聖一切耶
見煩惱餘一切十六段等一切有法

相上聖本作亦

開下俱有佛字

又以下俱別行
要記引法花乃至分
齊(四行)○要記無
經字

經下聖本無經字○
要記亦同

俱無輪字

俱無作字

與一切元名相法之名一切空元空
相空一種相似從元始世界未得開
法及得開佛法乃至未得法思已未
常元一切貪瞋煩惱常元一切耶錯
誇佛誇法通凡及聖一切耶見煩惱
等一偈一句一字一分一毫即如
一切十七段等內所說經等說天
明法花經不輕菩薩品內廣明不
輕喜產禮教一切道俗上下分齊淨
行優婆塞經內之說輕喜產禮
教一切道俗上下分齊又法華經
明不輕喜產是此立一切經一切律
一切輪論皆悉普名一切出家人作
作此立所以敬即信即時不輕喜
產作出家比丘淨行優婆塞經說

說俱作論

俱無俗字

俱無得字

乘下俱有菩薩一切
四字
覺法本作學○覺下
俱有一切利根正見
成就凡夫十字

不輕菩薩作俗人比丘一切經一切
律一切論未見有多部經律論等
說一切俗人作比丘者所以唯敢
你信未敢即時不輕菩薩作俗
人比丘

又明一切利根空見有見衆生乃
至未得法忍已未唯得偏學一切
第三階佛法內一切廿四段等一切
善正佛法所以唯說乃至未得法忍
已未說不說從得法忍已去說

又明一切利根真聖一切佛一切一乘
三乘善善一切聲聞一切緣覺一
切一乘根根善善一切三乘根根善
善一切聲聞根根衆生一切緣覺
根根衆生一切利根或見俱不

破戒破下聖本更有
破字

善法本作吾

世世間俱作世間

在下俱有世字

悉下俱有普字

俱無初說字○夫下
俱有一字
界下俱有界字○內
下法本作亦
戒下法本有復容有
若五十戒七字

破或破或不破見正見成就九種
人若有一切聖人在世於一切三寶
於一切衆生於一切新惡備善解
行莫問一切善惡持說破或邪
正乘小乘世世間出世間等因受
受皆善善有一切利根正見成就
九種人若有一切聖人在家
皆善有一切利根破或不破見正
見成就四種人如上世四段法內所
說經等說
又於一切利根或見俱不破或
不破見正見成就凡夫一乘根
乘善善一切聲聞一切緣覺衆生
世世間出世間等因受
受皆善善有一切利根正見成就
九種人若有一切聖人在家
皆善有一切利根破或不破見正
見成就四種人如上世四段法內所
說經等說

又明已下出上一切廿四段等一切
善真善正佛法功德多少淺深寬
狹長短分廣一者明一切利根空

佛下俱有法字

見有見衆生從元始世界未得聞佛
已前已有少分及得聞佛法已來一
切七十種等所說一切惡或自作一
切惡或嫌他作一切惡或罵他
打他等所作一切惡多少淺深寬
狹長短分齊利根空見有見衆生從
无始世界未得聞佛法已前已有
少分及得聞佛法已來一切七十種
等所說一切善佛法因一者明
雅衆善求名求利求勝他故一切
耶善佛法二者明唯偏將一切利
根空見有見衆生一切耶善佛法
作是一切利根真聖及凡夫正見
成就九種人一切正善佛法作非
一切耶善佛法多少淺深寬狹長

雖下俱有作字

有下俱有見字

短分齊久與下兩部行內所說一切
惡一種相何以故明以空見驗有
相作不定明一切利根空見有見衆
生能起一切耶善佛法人多少分
齊既與十方世界所有地立一種相
似如上如下多說文顯易識以人
驗所起一切耶善佛法多少分齊亦
與十方世界所有地立一種相似類
似可知若准依大般涅槃經說文
當義當明一切利根空見有見
衆生於一切世間內及一切佛法內
一作一切惡一切耶善佛法多少分
齊皆與十方世界所有地立一種相
似若准依大方等陀羅尼經說文當
義當明一切利根空見有見衆生於

俱無說字

說俱作記

塵下俱有無數二字
○俱無十方亦與以
下二十字

切聖本作種

要記引佛滅度乃至
不淨說法(三十五
行)

要記無名字

衆上要記有有字

耶要記作邪

真下要記無普字○
法下聖本有法字

要記無斯一行○其
下俱有正字

未要記作來

耶要記作邪

謗法本作謗聖本作
部

耶要記作邪○不下
俱有不字

耶要記作邪○同無
經字

耶要記作邪

一切世間內及一切佛法內所作一切
惡一切邪善佛法多少分應以一切
化惡惡多少分當驗之皆與十方
虛空法界及大地土山河森林盡末為
等大如微塵一種相似名與十方无
邊一種相似亦與微塵无數一種相
似名與衆生无邊一種相似名與方
便无邊一種相似名與法性无邊一切
相似
又若准依上第一大段內八部之餘
卷第一大段第九子段內十三部經
等說文當義當佛滅度一千年已
後文當義當於一切道俗內之名
於一切利根宜見有見衆生內
余許一切惡一切邪善佛法准有

上一切世間內及一切善真善正佛法
能得頓滅之皆善善盡正是其對
治藥已外更无有一法是其對治藥
故何以故明一切利根宜見有見衆生
乃至未得法忍已未准除一切普
真善正佛法已外歸一切別真別正
三寶度一切別真別正衆生斷一切
別真別正惡於一切別真別正善解
行等一名為惡欲二邪教三惡知識
四謗佛五助六師外道法六亦為他
人說耶道法七不聽受一飲水以自
供養八增上慢教九順行魔教十
乃至少言語亦名耶見十一乃至讀經
誦經之名不淨說法十二乃至分別
一切佛法是非耶正長短名不淨說

俱無法字○滿內要
記作內滿
要記無欲字○如同
作加
經下俱無如字○如
要記作所
子要記作文○說俱
作記

真上要記有別字

善下俱有佛字

輪俱作轉

餘俱作飲○俱無衆
字○要記亦同
耶要記作邪○錯下
俱無錯字○要記亦
同○同無謗佛二字

要記無相應二字

法得罪過於欲三千大千世界滿內
衆生惡欲如迦葉經說餘者如佛
藏經如說所以如餘卷第一大段
第九子段內十三部經等說一者元
當明一切道俗亦名一切利根空
見有見衆生由分別真別正佛法
內一切惡一切善法故常起一切貪
瞋煩惱元量元邊若更分別一切別
真別正佛法內一切善佛法輪更
增長一切貪瞋煩惱喻如一切壹
病及一切大小便不通衆生返更
多食多餘衆聚水一種相似又讀經
誦經雅元耶錯謗佛謗法通凡及
聖惡之能得生一切貪瞋煩惱復不
能得與一切元名相法相應所以乃

俱無次字

書法本作盡聖本作
畫

陳聖本作陣

俱無說四二字

至讀經誦經亦名不淨說法二者文
當義當明一切道俗亦名一切利
根空見有見衆生由分別一切別真
別正佛法故唯偏將一切利根空
見有見衆生一切耶善佛法作是
一切利根真聖及凡夫正見成就
九次種人一切正善佛法作非唯瞋唯
罵唯打唯斂等者皆悉普是若
更分別一切別真別正佛法內一切惡
一切善佛法轉更增長一切耶錯謗
佛謗法凡及聖喻如一切生盲衆
生學一切畫書作一切田種作一切工
巧作一切興主販賣及一切任陳等
一種相似如餘卷第一大段第九乃
至第十四六子段末說四就四種喻

又當義當明一切道俗亦名一切
利根空見有見衆生於一切佛
法一向畢竟永不識一偈一句一字
一不一豪耶五分齋之義與一切
生有衆生一種相似法內廣說唯
除一切聖人一切利根正見成就
凡夫一切寂大能根衆生兩種應
羊僧不在其限如一切第一第二兩
階佛法內所說經大方廣十輪經等
說何以故明文當義當佛賦度一千
年已後一切道俗名字與一切利根
空見有見衆生九種人名字一種无
利唯在綺互說之不同耳
又明一切道俗亦名一切利根空見
有見衆生乃至未得法忍已未於一切

別真別正佛法內一切惡准得不作
一切惡信實一切惡衆生准得不
與共住又於一切惡信實一切惡衆
生准除與共滯語乃至禮足供養
守護等不在其限又亦不得深分
別一切別真別正佛法是非耶正
長短亦不得與深分別一切別真
別正佛法是非耶正長短一切耶善
僧實一切耶善衆生共住准除與
共滯乃至禮足供養守護等不在
其限如佛藏經大薩遮尼乾子經大
集月藏分經與雜阿含經同大方廣
十輪經大方等陀羅尼經等說
又明一切道俗亦名一切利根空
見有見衆生乃至未得法忍已未

乃上聖本有生字

俱無无知解三字

第下俱有一字

若法分列一切別真別正佛法是非
取正長短名為一切耶善佛法所
由義如餘卷第一九段第九子段內
十三條行說唯除學一切水四段等
一切善真善正佛法不在其限如上
何以故內說
又明何以故明一切第三階佛法內一
切利根空見有見乃至未得法忍
已未莫同一切善惡持戒破戒皆悉
善名一切破戒眾生如上第一大段
內釋莫問一切利根起根有知解元
知解歸一切三寶度一切眾生新
一切惡修一切善解行等多少但使常
一向唯純偏學一切世間內一切第
第二兩階佛法內一切七十種等所

解下俱有得字

梅聖本作旃

段下俱有內說二字
○俱無說字

開俱作開○純法本
作純

羅下俱有羅字

曲俱作典

說一切取上、得毋得樂別真別正
佛法僧眾生新惡修善解行等常耶
常備索諦佛常語法通凡及聖文雷
常行誹謗語如上第二大段七種梅
陀羅道俗法內說常一向唯純損
无益佛法餘如上卷初段名說常
一向唯純偏學一切有眼眾生佛法
唯除一切聖人一切利根真善正見
成就凡夫不在其限皆悉善名聞能
无智惠常行耶法常能妄諸沙門等
皆悉善名聞陀羅王皆悉善名聞
癡破戒比丘悉善名刹利梅陀羅皆
悉善名輔相梅陀羅少於善根不
肯信向論曲愚癡自稱多知皆生憍
慢不畏後世惡業果報離善知識乃

俱無乃至趣三字

種下俱無七字

俱無見字

至趣乃至趣向阿鼻地獄等皆善善
 名刹利栴陀羅皆善善名婆羅門栴
 陀羅皆善善名沙門栴陀羅皆善善
 名大臣栴陀羅皆善善名令善清滅
 乃至隨於阿鼻地獄等所由義如上
 第二大段七種七栴陀羅道俗法內
 說如下廿四段法內說一者明常增
 長一切上下所主一切耶室有一切
 耶三毒一切耶我見一切耶見自高
 輕他一切耶自是非他等元量元
 邊二者明常增長一切謗佛謗法
 通凡及聖元量元邊如餘卷第一
 大段第九子段內十三部經等說
 三者明常增長一切十惡一切四重
 惡一切五逆惡一切廿六種一切阿鼻

部俱作龍

鬼上聖本有惡字

等下俱有說字

惡斷俱作斷惡

一上俱有內字

地獄惡等元量元邊如佛藏經大方
 廣十輪經等說四者明常增長一切
 利根正見成就九種人內一切利
 根空見有見衆生元量元邊如上
 第一大段內所說八部經等說五者明
 常增長一切不信佛法一切惡天部
 八部一切鬼神一切惡夜叉羅刹
 一切惡魔等無量元邊如大集經
 大集月歲分經俱雜阿含經同
 灌頂經雜勸神咒經大般涅槃經
 大方廣十輪經摩訶薩耶經法
 花經迦葉經等六者明滅一切
 正善三寶一切正善衆生一切正
 善惡斷行一切正善修善修辭行等
 一切元名相法皆善善盡盡元名

行上俱無可字

知聖本作如

寶下俱有一切惡業
生內六字○俱無佛
字
雖下俱有不字○俱
無不字

法本無說字

相法雅不可滅由人不可行故名
之為滅七者明常不與已一切有
緣佛法相當知此既下段、內廣
明滅一切有緣佛法僧衆生剎惡
供善解行等有皆悉普是八者
明滅一切惡僧寶一切佛性佛皆
悉普滅盡佛性雅可不滅由人不
行故名之為滅此段以惡驗善說
九者明滅一切惡僧寶一切惡衆生
內一切菩薩行皆悉普滅盡由自身
不行由復不肯敬一所以名之為滅此
既以惡驗善說十者明滅一切惡僧
寶一切惡衆生內一切當來佛皆悉
普滅盡當來佛雅不可滅由人不行
故名之為滅此段以惡驗善說十

想下俱有佛字

密俱作密

一者明滅一切惡僧寶一切惡衆生
即是切真佛想皆悉普滅盡
由人不行故名之為滅此段以惡
驗善十二者明滅一切惡僧寶
一切惡僧寶一切惡衆生內翻一切
惡作一切善翻一切耶善作一切正善
敬一切正善作一切六波羅密一切十二
頭陀等具足決定得一切菩提涅
槃果想皆悉普滅盡由人不行故名
之為滅此段以惡驗善說十三者明
滅一切惡僧寶一切惡衆生一切六
弊惡等內一切餘殘不盡善皆悉
普滅盡此段以惡驗善說十四者明
滅一切惡僧寶一切惡衆生一切六
度耶善解行等內一切餘殘不盡

俱無者字

經下俱有餘字

正善皆善普滅盡此段在依次上
 十三段說十五名明滅一切剎頭
 或名者深衣或名者袈裟僧皆善
 普滅盡如上第一大段內所說八
 部經卷第一大段第九子段內十
 三部經等說十六名明滅一切利根
 空見有見眾生內一切利根正見
 成就九種人一切三階佛法皆善
 普滅盡十七名明滅常一向唯純偏
 求一切寂上、別好利養一切寂上
 上別好寺舍一切寂上、別好僧正
 及一切寂上、別好法王等一切寂
 上上別好師僧一切寂上上別好
 弟子一切寂上、別好徒眾一切寂
 上、別好檀越等八種一切最大耶

別下俱有好名開一
 切最上上別九字
 好寺舍聖本作妙寺
 舍

俱無三字

聖本無五字

皆下俱有賢字

衆上俱有三字

好道信內一切利根正見成就九種
 人一切三階佛法皆善普滅盡十八
 名明滅一切五逆一切四重一切誹
 謗正法一切毀謗賢聖一切十一種
 等一切寂大耶惡道俗內一切利
 根正見成就九種人一切三階佛
 法皆善普滅盡十九名明滅一切
 六道眾生內一切利根正見成就
 九種人一切三階佛法皆善普
 滅盡廿名明滅一切六親眷屬內一
 切利根正見成就九種人一切五
 階佛法皆善普滅盡准依大方廣
 十輪經明一切四重五逆誹謗正
 法毀謗聖等聖內有正見成就三
 衆生准依大般涅槃經明一切聖人